

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖繩戦	前期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-伊佐 真一郎	1年	講義終了後に教室にて受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	沖繩の歴史上欠かすことができない「沖繩戦」について、様々な資料を用いながら理解を深めていきます。沖繩戦がいかにして行われ、人々が何を体験したのかはもとより、沖繩戦に起因する戦後の諸問題、沖繩戦の記録・継承活動などへも視野を広げて解説していきます。また、史資料や証言、表現など数多くの記録手段を通して「過去を知り、向き合う方法」を体得して下さい。	私達が沖繩戦について広く知り深く考えることの意義がいささかも色褪せていないことは、沖繩戦の話題が今日に至るまで絶えることなく続いていることから示されています。この講義で扱う沖繩戦という出来事を通して、その後現在までの沖繩の歩み、そこに生きた人々の姿、そして今なお世界中で戦争が続く現状を想像し、向き合う機会となるよう望みます。
到達目標	沖繩戦についてさまざまな視点から学び理解することで、「人々の体験を聞き、記録することができる」「資料館や戦争遺跡、各種資料を用いて沖繩戦について伝えることができる」「自らの関心に基づいてテーマを設定し、適切に資料を選択/活用し、学習/研究活動の質をより高めることができる」の3点を到達目標とします。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション・なぜ「沖繩戦」か（講義の流れ、評価方法、沖繩戦の概要）	参考文献を読む
	2	沖繩戦を知る・伝える（沖繩戦の記録・学習・継承の方法）	参考文献を読む
	3	戦争と社会①（近代沖繩の時代、教育、国家・戦争への意識）	参考文献を読む
	4	戦争と社会②（戦時体制下の社会、生活、兵役）	参考文献を読む
	5	臨戦態勢下①（第32軍の配備と住民の関わり）	体験証言を読む
	6	臨戦態勢下②（県外疎開、空襲）	体験証言を読む
	7	臨戦態勢下③（北部疎開、根こそぎ動員）	体験証言を読む
	8	沖繩の戦い①（日米両軍の戦略と戦術、戦闘経過、記録映像）	体験証言を読む
	9	沖繩の戦い②（地域・島じま・人びとの戦争）	体験証言を読む
	10	沖繩の戦い③（戦争と衣食住、病気、戦場における生と死）	体験証言を聞く
	11	沖繩県民の戦争（移民と戦争、県民の被爆・空襲体験）	体験証言を聞く
	12	戦争の終わり戦後の始まり①（収容所、基地建設、終戦処理、戦後復興）	フィールドワーク
	13	戦争の終わり戦後の始まり②（遺骨、慰霊碑、不発弾、生き残った人びと）	フィールドワーク
	14	戦争を語り継いでいくこと①（資料館建設、戦跡の保存活用、学校での学習）	フィールドワーク
15	戦争を語り継いでいくこと②（戦争体験の語りと記録、表現活動）	授業内容を振り返り整理する	
16	試験	自分の考えをまとめる	

実践	テキスト・参考文献・資料など 指定する教科書はありません。講義で配布するレジュメで参考文献・資料を紹介します。 参考文献：『市町村史』『字誌』などの地域史/誌 『沖繩県史 各論編 第六巻 沖繩戦』（沖繩県教育委員会、2017） 吉浜忍『沖繩の戦争遺跡（記憶）を未来につなげる』（吉川弘文館、2017） 林博史『沖繩戦と民衆』（大月書店、2001年） 吉浜忍・林博史・吉川由紀『沖繩戦を知る事典』（吉川弘文館、2019）
----	---

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・沖繩戦を理解するためには戦争体験者の証言に触れることが欠かせません。これまで各市町村や様々な個人・団体などによる証言記録が数多く刊行されているほか、資料館やウェブサイトでの情報公開も充実しつつあります。まずは自分の地域の戦争体験者の証言を読み、自分の地域の戦争について知ってください。 ・講義の内容や自らの関心による積極的な質問や相談は歓迎します。
--------	--

評価	<ul style="list-style-type: none"> ・評価は講義各回で提出するリアクションペーパー30点、期末試験30点、レポート課題40点の合計100点を満点として判断します。出席や講義の理解度はリアクションペーパーにて確認します。 ・出席率が3分の2に満たない場合は評価の対象となりません。届け出の無い欠席やリアクションペーパーの不提出は理由の如何を問わず考慮しません。 ・私語などの迷惑行為に対しては減点または退室の対象となり、出席を認めない場合があります。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 沖繩に関する様々な科目を通して、今日までの沖繩の歩みと現代沖繩の諸問題の関係を整理して理解を深めて下さい。また、より関心を高めて自らのオリジナル・テーマを設定し、現場調査や資料の分析を通して新たな切り口で沖繩戦を考察してみてください。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄戦	後期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-伊佐 真一郎	1年	メールptt1130@okiu.ac.jpにて受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>沖縄の歴史上欠かすことができない「沖縄戦」について、様々な資料を用いながら理解を深めていきます。沖縄戦がいかにして行われ、人々が何を体験したのかはもとより、沖縄戦に起因する戦後の諸問題、沖縄戦の記録・継承活動などへも視野を広げて解説していきます。また、講義で紹介する日米両軍の資料や証言など資料を通して「過去を知り、向き合う方法」を体得して下さい。</p>	<p>私達が沖縄戦について広く知り深く考えることの意義がいささかも色褪せていないことは、沖縄戦の話題が今日に至るまで絶えることなく続いていることから示されています。この講義で扱う沖縄戦という出来事を通して、その後現在までの沖縄の歩み、そこに生きた人々の姿、そして今なお世界中で戦争が続く現状を想像し、向き合う機会となるよう望みます。</p>
到達目標	<p>沖縄戦についてさまざまな視点から学び理解することで、「人々の体験を聞き、記録することができる」「資料館や戦争遺跡、各種資料を用いて沖縄戦について伝えることができる」「自らの関心に基づいてテーマを設定し、適切に資料を選択/活用し、学習/研究活動の質をより高めることができる」の3点を到達目標とします。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) イントロダクション・なぜ「沖縄戦」か (講義の流れ、評価方法、沖縄戦の概要)	参考文献を読む
	2	(特) 沖縄戦を知る・伝える (沖縄戦の記録・学習・継承の方法)	参考文献を読む
	3	(特) 戦争と社会① (近代沖縄の時代、教育、国家・戦争への意識)	参考文献を読む
	4	(特) 戦争と社会② (戦時体制下の社会、生活、兵役)	参考文献を読む
	5	(特) 臨戦態勢下① (第32軍の配備と住民の関わり)	体験証言を読む
	6	(特) 臨戦態勢下② (県外疎開、空襲)	体験証言を読む
	7	(特) 臨戦態勢下③ (北部疎開、根こそぎ動員)	体験証言を読む
	8	(特) 沖縄の戦い① (日米両軍の戦略と戦術、戦闘経過、記録映像)	体験証言を読む
	9	(特) 沖縄の戦い② (地域・島じま・人びとの戦争)	体験証言を読む
	10	(特) 沖縄の戦い③ (戦争と衣食住、病気、戦場における生と死)	体験証言を聞く
	11	(特) 沖縄県民の戦争 (移民と戦争、県民の被爆・空襲体験)	体験証言を聞く
	12	(特) 戦争の終わりと戦後の始まり① (収容所、基地建設、終戦処理、戦後復興)	フィールドワーク
	13	(特) 戦争の終わりと戦後の始まり② (遺骨、慰霊碑、不発弾、生き残った人びと)	フィールドワーク
14	(特) 戦争を語り継いでいくこと① (資料館建設、戦跡の保存活用、学校での学習)	フィールドワーク	
15	(特) 戦争を語り継いでいくこと② (戦争体験の語りと記録、表現活動)	授業内容を振り返り整理する	
16	(特) 試験	自分の考えをまとめる	
実践	テキスト・参考文献・資料など	<p>指定する教科書はありません。講義で配布するレジュメで参考文献・資料を紹介します。 参考文献：『沖縄県史 各論編 第六巻 沖縄戦』(沖縄県教育委員会、2017) 吉浜忍『沖縄の戦争遺跡 (記憶)を未来につなげる』(吉川弘文館、2017) 林博史『沖縄戦と民衆』(大月書店、2001年) 吉浜忍・林博史・吉川由紀『沖縄戦を知る事典』(吉川弘文館、2019)</p>	
学びの手立て	<p>・沖縄戦を理解するためには戦争体験者の証言に触れることが欠かせません。これまで各市町村や様々な個人・団体などによる証言記録が数多く刊行されているほか、資料館やウェブサイトでの情報公開も充実しつつあります。まずは自分の地域の戦争体験者の証言を読み、自分の地域の戦争について知ってください。 ・講義の内容や自らの関心による積極的な質問や相談は歓迎します。</p>		
評価	<p>・評価は講義各回で提出するリアクションペーパー30点、期末試験30点、レポート課題40点の合計100点を満点として判断します。出席や講義の理解度はリアクションペーパーにて確認します。 ・出席率が3分の2に満たない場合は評価の対象となりません。届け出の無い欠席やリアクションペーパーの不提出は理由の如何を問わず考慮しません。 ・私語などの迷惑行為に対しては減点または退室の対象となり、出席を認めない場合があります。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>沖縄に関する様々な科目を通して、今日までの沖縄の歩みと現代沖縄の諸問題の関係を整理して理解を深めて下さい。また、より関心を高めて自らのオリジナル・テーマを設定し、現場調査や資料の分析を通して新たな切り口で沖縄戦を考察してみてください。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の観光	後期	土2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-千住 直広	1年	授業終了後に教室で受け付けます。ptt514@kiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	観光は基本的に人と場所に関する現象だと言われている。つまり、観光はレジャーやレクリエーションを主目的に旅行した際の、一時的滞在や移動に発生する現象ととらえることができる。したがって、本講義では、観光客の受け入れ側である観光地で展開される自然的・社会的・経済的な現象を総合的に検討し、観光地特有の問題・課題や観光地づくりについて概説します。	沖縄の観光について、現状・課題などを幅広く伝えます。この機会に、沖縄についての見識を深めて下さい。講義方法については状況により変更があり得ます。都度、メール等でお知らせしますので十分注意しておいて下さい。
到達目標	本講義の目的は、ゲストとしては楽しい観光であるが、その観光をホスト側の視点に立ち、誘客方法や、受け入れ側の問題や課題を認識し、その対応策を考える能力を身につけることができます。顧客ニーズについても把握できるようになります。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(対) イントロダクション	シラバスをよく読むこと
	2	(特) 沖縄観光の展開と観光客特性	レジュメをよく読むこと
	3	(特) 観光資源(自然・人文資源、世界遺産、課題と対応)	同上
	4	(特) 観光産業①宿泊施設(ホテル、民宿など)	同上
	5	(特) 観光産業②運輸業(航空業、レンタカー、観光バス、クルーズ船など)	同上
	6	(対) 観光産業③ダイビングサービス(事業者特性、海面利用問題)	同上
	7	(特) 観光産業④旅行業	同上
	8	(特) 観光産業⑤テーマパーク、エステ・スパ、ショッピングツーリズム	同上
	9	(特) 観光による影響①経済的影響、自然的影響	同上
	10	(対) 観光による影響②社会・文化的影響	同上
	11	(特) 持続可能な観光①エコツーリズム	同上
	12	(特) 持続可能な観光②グリーンツーリズム、ウェルネス、健康保養観光	同上
	13	(特) 観光政策①沖縄観光振興計画と振興事業(リゾートウェディングなど)	同上
14	(特) 観光政策②開発規制を目的とした条例と要綱	同上	
15	(特) 地域の取組み	同上	
16	テスト		
実践	テキスト・参考文献・資料など 講義では、その都度レジュメ・資料等を配布する。適宜指示する。 日頃より新聞を読むこと。		
学びの手立て	私語、授業中の携帯電話は厳禁。講義を受講する上での最低限のマナーは、心得ておくこと。 病気等やむをえない理由による欠席の場合は次の講義で申し出ること。 講義内容をより理解するためには、日頃より新聞をよく読むこと。 また、実際、観光業へ就職したい学生の履修が望まれる。		
評価	レポート及びテスト(50%)、平常点(50%)を総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目として、「観光経済論」、「観光情報論」がある。 実際、宿泊施設や観光地などに足を運び、観光客の動向を自分の目で確かめることが望ましい。
-------	---

※ポリシーとの関連性 沖縄の基地問題を反・脱植民地主義の観点から、近年高まっている「県外移設論」をめぐる議論を賛否を含めて学びます。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の基地問題A	前期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-知念 ウシ	1年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	いわゆる「沖縄問題」、あるいは「基地問題」と呼ばれるものに対して、近年は盛んに「植民地主義」の観点から議論がなされています。その基本的な議論の枠組みを学びます。	自分の生まれる前から沖縄には基地があり、それが当たり前という感覚がある諸君やそのような自分の感覚がどのようにしてできたのか、またそれがどのような意味を持つのか、を考えたい諸君の参加を待っています。毎回新聞（スポーツ新聞を除く）を持参してください。
到達目標	基地問題をはじめ、沖縄への差別、植民地主義について理解を深められるかもしれません。「ポジショナリティー」と「アイデンティティー」という概念の区別ができるようになり、県外移設や独立論をめぐる論点やその方向性がわかるようになるかもしれません。これらをいっしょにユンタクできる一生の仲間と出会えるかもしれません。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	4/8 ガイダンス どういう位置からこの授業を行うか	沖縄の歴史と自分をつなげる
	2	4/15 沖縄の未来を共に創造する仲間をつくるワークショップ	勉強仲間と出会う
	3	4/22 普天間基地を見に行く	実際の観察と配布資料の照合
	4	5/13 沖縄の基地問題とは何か 話し合うワークショップ	問題点を浮かび上がらせる
	5	5/20 沖国大米軍ヘリ墜落炎上事件	配布の参考資料を読む
	6	5/27 ラップを聴きながら基地問題を感じ考える	ラップを聴く
	7	6/3 沖縄の基地はどのようにできたか	資料を読む
	8	6/10 沖縄の基地は何をしてきたか	新聞と遊ぶ
	9	6/17 コラージュ川柳ワークショップ 新聞と仲良くなる	資料を読む
	10	6/24 元兵士のもうひとつのあり方	配布論文を読む
	11	7/1 沖縄戦についてあらためて感じ考える	資料を読む
	12	7/8 沖縄と核兵器	参考文献を読む
	13	7/15 県外移設論/基地引き取り論	参考文献を読む
14	7/22 先住民論、独立論	沖縄の独立への賛否について考える	
15	7/29 まとめ 「稀なる望み」があるとすれば、、、	あらためて未来の沖縄を夢見る	
16	8/5 最終テスト		
テキスト・参考文献・資料など	参考文献は以下のとおり。野村浩也『無意識の植民地主義 日本人の米軍基地と沖縄人』御茶の水書房、2005年、知念ウシ他『あなたは戦争で死ねますか』（NHK出版、2007年）、同『ウシがゆく 植民地主義を探検し、わたしを探す旅』、沖縄タイムス社、2010年、同『シランフーナーの暴力』未来社、2013年、高橋哲哉『沖縄の米軍基地 県外移設を考える』集英社新書、2015年。資料は適宜配布します。		
学びの手立て	毎回新聞を読む時間を設けますので、スポーツ新聞以外のものをできれば2紙以上持参してください。テレビやインターネットのニュースだけではなく、紙媒体の新聞で、基地問題に関して記事の切り抜きを続けることを勧めます。		
評価	平常点（受講態度とリアクション・ペーパーへの書き込み内容など）が20点、「ミニレポート課題」の提出と内容評価が20点、期末レポート課題の提出と内容評価（または期末テスト）が60点の配点で評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 植民地主義に関して理解を深めたい学生は後期の「沖縄の社会」も引き続き受講してください。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の基地問題B	後期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-河村 雅美	1年	授業の最後を質問や相談の時間にしています。メールはこちらです。ptt503@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>「沖縄の米軍基地」問題は「基地反対運動」の人々の問題にとらえられがちです。しかし「米軍基地」は米軍国内、沖縄以外の土地にも存在する国際的な問題でもあり、現在私たちの暮らしている島の風景や安全、健康に関係していることで沖縄で暮らす人々に等しく影響する問題でもあることを知ってほしいと思います。この授業では特に環境問題から「沖縄の米軍基地」を学びます。</p>	<p>講師は環境調査団体の代表を務めており、自らの調査結果も交えて、みなさんにお話していきます。アメリカンビレッジ、イオンモールライカムがどのような土地であったか、生活空間から戦争や基地の爪痕がいきなり顔を出す、そんな出来事が続いていることなど、米軍基地と暮らしの空間がどんなふうに繋がっているかを、基地について改めて学び、考える機会としてもらいたいと思っています。</p>
到達目標	<p>1) 海外の例を知ることにより、沖縄の問題を考えるとときにグローバルな視点を持つて考えることができるようになる。 2) 沖縄の米軍基地に係る歴史を知ることができる。 3) 現在進行形の問題とその背景を知ることができるようになる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) オリエンテーション (最終シラバス案の紹介) : 講師の自己紹介、授業の指針	
	2	(特) 1 (1) 「米軍基地」とは何か: セッション目的説明	配布資料を事後学習する
	3	(特) (2) 沖縄の米軍基地の概要:	リアクションペーパー準備
	4	(特) 2 (1) 米軍基地/風景に消えた基地/基地の中には何が: セッション目的説明	リアクションペーパー執筆
	5	(特) (2) 沖縄の基地の形成 普天間飛行場を中心に	配布資料を事後学習する
	6	(特) (3) 基地内の自然資源、文化財	配布資料を事後学習する
	7	(特) (4) 米軍基地と水: 奪われた水源	配布資料を事後学習する
	8	(特) 3 (1) 米軍基地と暮らし 米軍基地と環境問題: セッション目的説明	リアクションペーパー準備
	9	(特) 日米地位協定・日米合同委員会・環境関係の権利 概論	リアクションペーパー執筆
	10	(特) 日米地位協定・日米合同委員会・環境関係の権利 事例紹介	配布資料を事後学習する
	11	(特) 生活空間の環境問題 土壌汚染 返還跡地という問題	配布資料を事後学習する
	12	(特) 生活空間の環境問題 土壌汚染 事例紹介	リアクションペーパー執筆
	13	(特) 生活空間の環境問題 水質汚染 事例紹介	配布資料を事後学習する
	14	(特) 生活空間の環境問題 水質汚染 事例紹介	レポート準備
15	予備日	レポート準備	
16	(レポート提出)		

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>授業はZoomでの講義形式となります。 教科書は使用せず、講師の作成した授業用の資料を用い、授業後に授業のサイトで公開します。 https://sites.google.com/okiu.ac.jp/2020okinawabaseissuesokiu/%E3%83%9B%E3%83%BC%E3%83%A0 参考文献はその都度、紹介します。</p>
----	---

学びの手立て	<p>①履修の心構え 現代史の概要 (特に第二次世界大戦、沖縄戦、ベトナム戦争など) については各自、概説書などで自習してください。</p> <p>②「学びを深めるために」 県内紙等の報道で沖縄の米軍基地問題で何が問題になっているかを各自、把握してください。</p>
--------	---

評価	<p>平常点: リアクションペーパーの提出等 40% (セッション毎の理解度を文章で評価する。到達目標の1), 2) を評価する)</p> <p>レポート: 60% (授業全体の理解度と、到達目標の3) を評価する)</p> <p>レポートのみの提出は採点対象としない。リアクションペーパーの提出回数が規定の2/3に達していない場合は不可となる。</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>(1) 関連科目 平和学やジェンダー関係など視野を広める科目を受講してもらいたいと思います。担当者も「国際関係論」「アジア社会論」の科目を開講しており、関連事項を話しています。</p> <p>(2) 次のステージ</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の基地問題B	前期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-石川 朋子	1年	原則、授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 「基地問題」を基地に隣接する環境で暮らす生活者として考えていく。	メッセージ 沖縄の「基地問題」を学ぶことで、「基地問題」を解決する方法について考えるきっかけになることを期待したい。
	到達目標 沖縄の「基地問題」について理解し、「基地問題」の解決方法について考えることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス	シラバスを読む
	2	軍用機墜落と大学(1)	配布資料、参考文献を精読する。
	3	軍用機墜落と大学(2)	配布資料、参考文献を精読する。
	4	石川・宮森小学校ジェット機墜落事件と住民(1)	配布資料、参考文献を精読する。
	5	石川・宮森小学校ジェット機墜落事件と住民(1)	配布資料、参考文献を精読する。
	6	米軍基地建設と住民(1)	配布資料、参考文献を精読する。
	7	米軍基地建設と住民(2)	配布資料、参考文献を精読する。
	8	米軍基地と都市形成	配布資料、参考文献を精読する。
9	テストまたはレポート	復習をする	
10	米軍基地から派生する被害(1)	配布資料、参考文献を精読する。	
11	米軍基地から派生する被害(2)	配布資料、参考文献を精読する。	
12	米軍基地から派生する被害(3)	配布資料、参考文献を精読する。	
13	米軍基地と経済	配布資料、参考文献を精読する。	
14	米軍基地と行政	配布資料、参考文献を精読する。	
15	予備（フィールドワーク）、レポート	復習をする	
16			
	テキスト・参考文献・資料など 講義は、毎回配布するレジュメと資料に沿って行う。参考文献等は講義のなかで適宜紹介する。ビデオ等の画像等も使用する。		
	学びの手立て 講義内容に関連する参考文献等を探索し、積極的に知見を深めていく。		
	評価 講義でのリアクションペーパー等により出席・講義理解状況等を把握する。 リアクションペーパー40%、レポート、テスト60%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 沖縄関係科目の受講を薦める。
-------	-------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の経済	後期	火 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	仲地 健	1年	研究室 5636 E-mail knakachi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 沖縄経済の実情を明らかにし、今後のあるべき経済社会の構築を考える。	メッセージ 沖縄経済の体質や問題点について理解を深めて欲しい。
	到達目標 沖縄経済の知識を習得し、その課題や今後の展望について広く議論ができるようになること。	

学びの準備	到達目標 沖縄経済の知識を習得し、その課題や今後の展望について広く議論ができるようになること。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) 講義内容と講義の進め方、成績評価方法などを説明する。	シラバスの確認
	2	(特) 米軍基地と沖縄経済①	当該講義の復習/次回講義の予習
	3	(特) 米軍基地と沖縄経済②	当該講義の復習/次回講義の予習
	4	(特) 米軍基地と沖縄経済③	当該講義の復習/次回講義の予習
	5	(特) 米軍基地と沖縄経済④	当該講義の復習/次回講義の予習
	6	(特) 沖縄振興策①	当該講義の復習/次回講義の予習
	7	(特) 沖縄振興策②	当該講義の復習/次回講義の予習
	8	(特) 沖縄振興策③	当該講義の復習/次回講義の予習
	9	(特) 沖縄振興策④	当該講義の復習/次回講義の予習
	10	(特) 国と沖縄県の財政関係①	当該講義の復習/次回講義の予習
	11	(特) 国と沖縄県の財政関係②	当該講義の復習/次回講義の予習
	12	(特) 国と沖縄県の財政関係③	当該講義の復習/次回講義の予習
	13	(特) 沖縄観光の課題と展望①	当該講義の復習/次回講義の予習
	14	(特) 沖縄観光の課題と展望②	当該講義の復習/次回講義の予習
	15	(特) 沖縄観光の課題と展望③	当該講義の復習/次回講義の予習
16	(特) まとめ		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 【テキスト】 特に指定しない。 【参考文献】 ・池宮城秀正編『国と沖縄県の財政関係』清文社、2016年。 ・大城郁寛『図説 沖縄の経済』東洋企画、2007年。
-------	--

学びの実践	学びの手立て 他の受講生の妨げになるような行為は厳禁
-------	-------------------------------

学びの実践	評価 課題の提出状況（70%）とその内容（30%）を総合的に判断し評価する。
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 沖縄の観光、沖縄の芸能
-------	----------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の経済	前期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	仲地 健	1年	研究室 5636 E-mail knakachi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 沖縄経済の実情を明らかにし、今後のあるべき経済社会の構築を考える。	メッセージ 沖縄経済の体質や問題点について理解を深めて欲しい。
	到達目標 沖縄経済の知識を習得し、その課題や今後の展望について広く議論ができるようになること。	

学びの準備	到達目標 沖縄経済の知識を習得し、その課題や今後の展望について広く議論ができるようになること。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義内容と講義の進め方、成績評価方法を説明する。	シラバスの確認
	2	米軍基地と沖縄経済①	当該講義の復習/次回講義の予習
	3	米軍基地と沖縄経済②	当該講義の復習/次回講義の予習
	4	米軍基地と沖縄経済③	当該講義の復習/次回講義の予習
	5	米軍基地と沖縄経済④	当該講義の復習/次回講義の予習
	6	沖縄振興策①	当該講義の復習/次回講義の予習
	7	沖縄振興策②	当該講義の復習/次回講義の予習
	8	沖縄振興策③	当該講義の復習/次回講義の予習
	9	沖縄振興策④	当該講義の復習/次回講義の予習
	10	国と沖縄県の財政関係①	当該講義の復習/次回講義の予習
	11	国と沖縄県の財政関係②	当該講義の復習/次回講義の予習
	12	国と沖縄県の財政関係③	当該講義の復習/次回講義の予習
	13	沖縄観光の課題と展望①	当該講義の復習/次回講義の予習
	14	沖縄観光の課題と展望②	当該講義の復習/次回講義の予習
	15	沖縄観光の課題と展望③	当該講義の復習/次回講義の予習
16	まとめ		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 【テキスト】特に指定しない。 【参考文献】 ・池宮城秀正編『国と沖縄県の財政関係』清文社、2016年。 ・大城郁寛『図説 沖縄の経済』東洋企画、2007年。
-------	---

学びの実践	学びの手立て 他の受講生の妨げになるような行為は厳禁。
-------	--------------------------------

学びの実践	評価 課題の提出状況（70%）とその内容（30%）を総合的に判断し評価する。
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 沖縄の観光、沖縄の芸能
-------	----------------------------

※ポリシーとの関連性 琉球文化圏における芸能の基礎的知識を学び、各地域（シマ・村落）に根付く芸能・祭り・歌謡の特性を知る。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の芸能	前期	土2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	伊藤幸太8回、仲本陽兵8回	1年	学内メールにて受付	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>日常生活空間において、あたかも風景のように存在している沖縄の芸能や歌謡が琉球文化の古層を今に伝える貴重な財産であるということと共に、身近に経験できるものとしてアイデンティティを形成する重要な一つであるということを実感する機会の提供。地域に生きる、または文化を伝える側の人材としての基礎的教養を各地の民俗芸能の事例を学ぶことで身に付けることをねらいとする。</p>	<p>「沖縄」という場所について「芸能」の視点から奄美・沖縄・宮古・八重山の文化圏におけるそれを映像資料や実演等を通して、基礎的知識を習得し、「自分」の生活している沖縄を見つめなおす機会になればと思います。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自らが生活する「沖縄」の文化を知り、芸能における基礎的な知識を専門科目を履修する際の前提として理解することができる。 ・琉球文化圏と各地域における独自の芸能群の存在を基礎知識を基に関連付けて把握することができる。 ・映像資料や実演をとおして芸能に触れることとで、自分と沖縄文化を今の生活と結びつけて考えることができる。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	レポート課題「自分の芸能体験について、そして沖縄の芸能について思うこと」	本時の復習と次回の予習
	2	レポート課題「沖縄の芸能分類について」	本時の復習と次回の予習
	3	レポート課題「興味関心のある芸能について」	本時の復習と次回の予習
	4	課題「奄美諸島と沖縄本島（諸島の地図）（周辺離島含む）の作成」	本時の復習と次回の予習
	5	課題「宮古諸島と八重山諸島（諸島の地図）（周辺離島含む）の作成」	本時の復習と次回の予習
	6	プリント課題「沖縄の歌謡について（琉歌①）」	本時の復習と次回の予習
	7	レポート課題「多良間島の八月踊りについて」①	本時の復習と次回の予習
8	レポート課題「多良間島の八月踊りについて」②	本時の復習と次回の予習	
9	レポート課題「野原マストゥリヤーについて」①	本時の復習と次回の予習	
10	レポート課題「野原マストゥリヤーについて」②	本時の復習と次回の予習	
11	プリント課題「沖縄の芸能について（琉歌②）」	本時の復習と次回の予習	
12	プリント課題「沖縄の芸能について（琉歌③）」	本時の復習と次回の予習	
13	レポート課題「エイサーについて」	本時の復習と次回の予習	
14	レポート課題「八重山の歌謡」①	本時の復習と次回の予習	
15	レポート課題「八重山の歌謡」②	本時の復習とふりかえり	
16	レポート課題「科目の課題を振り返り、考察する」	ふりかえり	
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	講義ごとに資料・参考文献等は適時紹介。		
	学びの手立て		
	①「履修の心構え」 毎回の課題提出によって出席とする。		
	②「学びを深めるために」 毎回の課題内容と、自らの周辺や生活等が関連付けられることを発見すること、例えば出身地で行われている祭りを調べるなどして受講するとより芸能が身近に感じられ理解が深まります。また、課題取組後にフィールドワークを行うことをお勧めします。		
	評価		
	毎回の課題提出をもって評価する。 課題提出をもって欠席とみなす。したがって規程を満たさない場合には単位を認めない。 成績評価配分：出席（課題提出）20%＋課題考査80%		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	「沖縄の文学」「沖縄の民話」「沖縄の言語」等の沖縄科目郡の同時・継続履修。日本文化関連専門科目として「琉球文化論」「琉球文学特殊講義」、古典芸能を学ぶものとして「琉球芸能史」「日本芸能史」。社会文化関連科目専門科目として「南島民俗学」「琉球アジア文化論」等。または沖縄で生活する自己の具体的表現として実演（踊りや三線等）を始める契機としてほしい。

科目基本情報	科目名 沖縄の言語	期別 後期	曜日・時限 火 2	単位 2
	担当者 -仲原 穰	対象年次 1年	授業に関する問い合わせ	
			授業終了後に教室で受け付けます。緊急の場合E-mail:isjatu07@yahoo.co.jpまで。	

学びの準備	ねらい 奄美・沖縄では現在も高年層を中心に伝統的なことば（＝琉球語）が使われていますが、若年層は高年層が使う琉球語が理解できず、中年層も琉球語のみで会話できる人はほとんどいません。このままでは、近い将来、琉球語が失われてしまいます。この講義では琉球語の基礎を学び、家庭や地域・社会で学ぶための足がかりにするねらいがあります。	メッセージ 講義が半期と限られているため、琉球語すべてについて詳しくとりあげることができません。3回目以降は「沖縄語」を中心に講義を進めます。講義ではこのほかに琉球語と日本語、現代日本語諸方言との関わり、沖縄のわらべうた・民謡・ことわざ等も取り扱う予定です。
	到達目標 この授業の到達目標は以下の2点です。①まず、一つ目は沖縄語を母語とする話者（高年層）の話すことばを6割程度理解できるようになることです。講義を毎回受講し、事前・事後学習をきちんと行えば、受講前には理解できなかった高年層のことばを受講後にはある程度理解できるようになります。②二つ目は、琉球語についての概略について他者へ説明できるようになることです。③三つ目は高年層と簡単な会話をおこなえるようになることです。講義では単語から句へ、句から短い文へと学びを進めます。また、講義では、高年層との会話で用いることができる表現も学びます。興味のある表現を覚え、高年層との会話にチャレンジしてください。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス／日本祖語と琉球語／琉球語と日本語／挨拶ことば	シラバスや配布資料をよく読むこと
	2	ハ行音の歴史－日本語と琉球語－／琉球諸語の多様性／琉球語の下位区分	配布資料で琉球語の概説を理解する
	3	三母音の原則	練習問題（宿題）／テキスト1課
	4	連母音の融合／子音の口蓋化①②	練習問題（宿題）／テキスト1課
	5	子音の口蓋化③／「～が」の使い分け／指示語／1拍語の特徴	練習問題（宿題）／テキスト1課
	6	サ形容詞の終止形・連体形・ヌ形／動詞の終止形	練習問題（宿題）／テキスト2課
	7	動詞の否定形・命令形・禁止形（ラ行動詞の禁止形も含む）／語中・語尾の「～り」	練習問題（宿題）／テキスト2課
	8	ア行（イ・ウ）とヤ行（イイ）・ワ行（ウウ）の区別／「～ヤ」の融合	練習問題（宿題）／テキスト3課
	9	動詞の終止形・連体形の違い／沖縄語の係り結び／「～を」	練習問題（宿題）／テキスト3課
	10	基礎の確認／「～に」／awaはaa	練習問題（宿題）／テキスト4課
	11	動詞の志向形・尾略形・連用形／疑問文の作り方	練習問題（宿題）／テキスト4課
	12	丁寧な言い方（名詞文と形容詞文）	練習問題（宿題）／テキスト5課
	13	動詞のテ形・継続形・過去形	練習問題（宿題）／テキスト5課
	14	動詞の過去の否定形・疑問形／サ形容詞の過去形・過去連体形	練習問題（宿題）／テキスト6課
	15	ナ形容詞／「～で」／三つの「ナ（一）」／動詞の丁寧形	練習問題（宿題）／テキスト7課
16	期末試験		

実践	テキスト・参考文献・資料など 【テキスト】 ※テキストは講義で使用します。購入するか、近くの図書館などで借りて手元に準備してください。『沖縄語の入門（CD付改訂版）一たのしいウチナーグチー』（白水社、2006[2000]年）西岡敏・仲原穰【著】、中島由美・伊狩典子【協力】 【参考文献】『沖縄の言葉と歴史』外間守善著（中公文庫、2000年）『沖縄語辞典－那覇方言を中心に－』内間直仁・野原三義編著（研究社、2006年）『沖縄語辞典』国立国語研究所編（財務省[大蔵省]印刷局、2001[1963]年）
----	---

学びの手立て	この講義は半期で沖縄の言語の基礎について学びます（外国語など他の語学は週2回）。そのため、1回の講義で多くのことを学び、覚えなくてはなりません。欠席がすると講義についていけなくなる可能性が高いので、体調不良などやむを得ない場合以外は、なるべく休まないでください。また、沖縄の老年層のことばは若年層のことばとかなり異なっています。普段使っていることばだから簡単だろう、また、普段から耳にしているから勉強しなくても大丈夫などとあなどることなく、「第2外国語を習得する」ぐらいの気持ちで取り組んでください。事後・事前学習（①配布されたプリントや教科書を読み返し、練習問題を解くなどの取り組み。②琉球語を話す人々の使用する伝統的なことばに常に興味を持ち、講義内容との違いについて考える、等）を行うと到達目標に近づきます。※配布した資料は配布順にバインダーなどに入れ、毎時間持参してください。
--------	---

評価	期末試験（75%）＋授業のまとめ[リアクション・ペーパー]の提出（25%）によって評価します。
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 (1)関連科目：沖縄科目群「沖縄の社会」（後期）／「琉球語会話Ⅱ」（後期）（日本文化学科）（2）次のステージ：講義終了後は、教科書の残りの部分を授業で学んだ要領で読み進めてください。第12課まで学べば、初級どころか、中級レベルまでマスターできます（特に敬語の使用法）。なお、講義では基礎を学ぶことが中心なので、その知識を実際に身につけるために、家庭・地域・社会などで実践し、経験を積んでください。
-------	---

科目基本情報	科目名 沖縄の言語	期別	曜日・時限	単位
	担当者 -仲原 穰	前期	火 2	2
		対象年次	授業に関する問い合わせ	
		1年	授業終了後に教室で受け付けます。緊急の場合はE-mail : isjatuu07@yahoo.co.jpまで。	

学びの準備	ねらい 奄美・沖縄では現在も高年層を中心に伝統的なことば（＝琉球語）が使われていますが、若年層は高年層が使う琉球語が理解できず、中年層も琉球語のみで会話できる人はほとんどいません。このままでは、近い将来、琉球語が失われてしまいます。この講義では琉球語の基礎を学び、家庭や地域・社会で学ぶための足がかりにするねらいがあります。	メッセージ 講義が半期と限られているため、琉球語すべてについて詳しくとりあげることができません。3回目以降は「沖縄語」を中心に講義を進めます。講義ではこのほかに琉球語と日本語、現代日本語諸方言との関わり、沖縄のわらべうた・民謡・ことわざ等も取り扱う予定です。
	到達目標 この授業の到達目標は以下の2点です。①まず、一つ目は沖縄語を母語とする話者（高年層）の話すことばを5割程度理解できるようになります。講義を毎回受講し、事前・事後学習をきちんと行えば、受講前には理解できなかった高年層のことばを受講後にはある程度理解できるようになります。②二つ目は、琉球語についての概略について他者へ説明できるようになることです。③三つ目は高年層と簡単な会話をおこなえるようになることです。講義では単語から句へ、句から短い文へと学びを進めます。また、講義では、高年層との会話で用いることができる表現も学びます。興味のある表現を覚え、高年層との会話にチャレンジしてください。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	遠隔 シラバスの確認／琉球語とは一名称・範囲・下位区分・現状—／世界の危機言語のとりくみ	シラバスや配布資料をよく読むこと
	2	遠隔 琉球語はどこから来たのか？—系統と借用語など—	配布資料で琉球語の概説を理解する
	3	遠隔 挨拶ことば／ハ行音の歴史—日本語と琉球語—	配布資料で琉球語の概説を理解する
	4	遠隔 琉球諸語の多様性／三母音の原則	練習問題（宿題）／テキスト1課
	5	遠隔 連母音の融合／子音の口蓋化①②	練習問題（宿題）／テキスト1課
	6	遠隔 子音の口蓋化③／「～が」の使い分け／指示語	練習問題（宿題）／テキスト1課
	7	遠隔 1拍語の特徴／サ形容詞の終止形・連体形・ヌ形	練習問題（宿題）／テキスト2課
	8	遠隔 動詞の終止形／動詞の否定形・命令形・禁止形	練習問題（宿題）／テキスト2課
	9	遠隔 ラ行動詞の禁止形／語中・語尾の「～り」	練習問題（宿題）／テキスト3課
	10	遠隔 ア行（イ・ウ）とヤ行（イイ）・ワ行（ウウ）の区別／「～や」の融合	練習問題（宿題）／テキスト3課
	11	遠隔 動詞の終止形・連体形の違い／沖縄語の係り結び／「～を」	練習問題（宿題）／テキスト3課
	12	遠隔 これまでのまとめ／「～に」	練習問題（宿題）／テキスト4課
	13	遠隔 動詞の志向形／疑問文の作り方	練習問題（宿題）／テキスト4課
	14	遠隔 声門閉鎖音の特徴／awaはaa	練習問題（宿題）／テキスト4課
	15	遠隔 丁寧な言い方（名詞文・形容詞文）／「～して」を使った表現	練習問題（宿題）／テキスト5課
16	期末試験（※状況に応じて遠隔で実施する場合もある）		

テキスト・参考文献・資料など	<p>【テキスト】 ※テキストは講義で使用します。購入するか、近くの図書館などで借りて手元に準備してください。『沖縄語の入門（CD付改訂版）—たのしいウチナーグチー—』（白水社、2006[2000]年） 西岡敏・仲原穰[著]、中島由美・伊狩典子[協力]</p> <p>【参考文献】『沖縄の言葉と歴史』外間守善著（中公文庫、2000年）『沖縄語辞典—那覇方言を中心に—』内間直仁・野原三義編著（研究社、2006年）『沖縄語辞典』国立国語研究所編（財務省[大蔵省]印刷局、2001[1963]年）</p>
----------------	--

学びの手立て	<p>この講義は半期で沖縄の言語の基礎について学びます（外国語など他の語学は週2回）。1回の講義で多くのことを学び、覚えることとなります。欠席すると講義についていけなくなる可能性が高いので、なるべく休まないでください。高年層のことばは若年層が使うことばとかなり異なります。よく耳にするから簡単だろう、勉強しなくても試験は何とかなるだろうなどとあなどることなく、「第2外国語を習得する」ぐらいの気持ちで取り組んでください。事後・事前学習（①配布されたプリントや教科書を読み返し、練習問題を解くなどの取り組み。②琉球語を話す人々の使用する伝統的なことばに常に興味を持ち、講義内容との違いについて考える、等）を行うと到達目標に近づきます。毎回配布するレジュメは書き込みしながら学ぶために作成したものです。適宜書き込みながら授業を聞かないと授業について行けなくなる可能性もあります。</p>
--------	---

評価	<p>期末試験（75%）＋授業のまとめとコメント（リアクションペーパー）の提出（25%）によって評価します。</p> <p>※ただし、「期末試験」を「遠隔」で実施する場合は、試験での得点の比率を少し下げて、期末試験（60%）＋授業のまとめとコメント（40%）で評価します（webのアンケートの回答も含む）。</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>(1) 関連科目：沖縄科目群「沖縄の社会」（後期）／「琉球語会話Ⅱ」（後期）（日本文化学科） (2) 次のステージ：講義終了後は、教科書の残りの部分を授業で学んだ要領で読み進めてください。第12課まで学べば、初級どころか、中級レベルまでマスターできます（特に敬語の使用法）。なお、講義では基礎を学ぶことが中心なので、その知識を実際に身につけるために、家庭・地域・社会などで実践し、経験を積んでください。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

沖縄を深く知る教養の一つとして、沖縄の考古学に関する知識を習得するための科目と位置付ける。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の考古学	前期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮城 弘樹	1年	問い合わせ先は E-mail「h.miyagi@okiu.ac.jp」です。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>考古学は発掘調査を行い、土に埋もれた歴史を掘り起こす学問である。授業では、沖縄を中心とする琉球列島における発掘調査の成果を中心に紹介し、そこからわかる沖縄の歴史について解説する。考古学の学問的特質について理解し、遺跡をとおして歴史を学ぶ。</p>	<p>【実務経験】市町村行政で実際に遺跡調査を担当していた実務経験を活かして、土に埋もれた沖縄の歴史について、年代を追って順に解説します。</p>
到達目標	<p>沖縄の考古学を理解し、自分の言葉で説明できる。 地域の遺跡について理解を深めることができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスをよく読むこと
	2	考古学ってどんな学問？	資料を配布するので読むこと
3	沖縄考古学への招待	テキストを事前に読んでおくこと	
4	沖縄の旧石器時代	テキストを事前に読んでおくこと	
5	奄美・沖縄の新石器時代（縄文時代並行期）	テキストを事前に読んでおくこと	
6	奄美・沖縄の新石器時代（弥生時代～古代並行期）	テキストを事前に読んでおくこと	
7	宮古・八重山の新石器文化	テキストを事前に読んでおくこと	
8	琉球列島における農耕のはじまりとグスク文化	テキストを事前に読んでおくこと	
9	琉球王国のグスク及び関連遺産群	テキストを事前に読んでおくこと	
10	陶磁の道	テキストを事前に読んでおくこと	
11	出土銭貨のものがたり	テキストを事前に読んでおくこと	
12	琉球王国時代	テキストを事前に読んでおくこと	
13	異国船来琉と水中遺跡	テキストを事前に読んでおくこと	
14	近代遺跡～沖縄の海と山の開発	テキストを事前に読んでおくこと	
15	発掘された戦争遺跡	テキストを事前に読んでおくこと	
16	テスト	復習を怠らないこと	
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキストは初回の授業で指定する。 参考文献は講義の中で適宜紹介する。</p>		
学びの手立て	<p>履修上の心構えとして、以下注意していただきたい。 出席確認を毎回厳格に行う。 テレビや新聞記事、インターネット等で紹介される遺跡調査に関するニュースなどに関心をもつこと。</p>		
評価	<p>小テスト50%、期末課題50%。 ※出欠状況については無断欠席5回以上になると「不可」とする。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>考古学研究によって得られた研究成果を広く教養として身につける。 関連科目としては「沖縄の歴史Ⅰ・Ⅱ」「沖縄の地理」「沖縄戦」。上位科目としては「南島考古学Ⅰ・Ⅱ」「南島先史学Ⅰ・Ⅱ」</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

沖縄を深く知る教養の一つとして、沖縄に関する知識を習得するための科目と位置付ける。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の考古学	後期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮城 弘樹	1年	問い合わせ先は E-mail「h.miyagi@oki.u.ac.jp」です。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>考古学は発掘調査を行い、土に埋もれた歴史を掘り起こす学問である。授業では、沖縄を中心とする琉球列島における発掘調査の成果を中心に紹介し、そこからわかる沖縄の歴史について解説する。考古学の学問的特質について理解し、遺跡をとおして歴史を学ぶ。</p>	<p>【実務経験】市町村行政で実際に遺跡調査を担当していた実務経験を活かして、土に埋もれた沖縄の歴史について、年代を追って順に解説します。</p>
到達目標	<p>沖縄の考古学を理解し、自分の言葉で説明できる。 地域の遺跡について理解を深めることができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスをよく読むこと
	2	考古学ってどんな学問？	関連記事を配布するので読むこと
	3	沖縄考古学への招待	テキストを事前に読んでおくこと
	4	沖縄の旧石器時代	テキストを事前に読んでおくこと
	5	奄美・沖縄の新石器時代（縄文時代並行期）	テキストを事前に読んでおくこと
	6	奄美・沖縄の新石器時代（弥生～奈良・平安時代並行期）	テキストを事前に読んでおくこと
	7	宮古・八重山の新石器文化	テキストを事前に読んでおくこと
8	琉球列島における農耕のはじまりとグスク文化	テキストを事前に読んでおくこと	
9	琉球王国のグスク及び関連遺産群	テキストを事前に読んでおくこと	
10	陶磁の道	テキストを事前に読んでおくこと	
11	出土銭貨のものがたり	テキストを事前に読んでおくこと	
12	琉球王国時代	テキストを事前に読んでおくこと	
13	異国船来琉と水中遺跡	テキストを事前に読んでおくこと	
14	近代遺跡～沖縄の海と山の開発	テキストを事前に読んでおくこと	
15	発掘された戦争遺跡	テキストを事前に読んでおくこと	
16	テスト	復習を怠らないようにすること	
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキストを初回授業で指定する。 参考文献は講義の中で適宜紹介する。</p>		
学びの手立て	<p>履修上の心構えとして、以下注意していただきたい。 出席確認を毎回厳格に行う。 テレビや新聞記事、インターネット等の遺跡調査に関するニュースなどに関心をもつこと。</p>		
評価	<p>小テスト50%、期末課題50%。 ※出欠状況については無断欠席5回以上になると「不可」とする。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>考古学研究によって得られた研究成果を広く教養として身につける。 関連科目としては「沖縄の歴史Ⅰ・Ⅱ」「沖縄の地理」「沖縄戦」。上位科目としては「南島考古学Ⅰ・Ⅱ」「南島先史学Ⅰ・Ⅱ」</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の自然環境 I	前期	木 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-廣瀬 孝	1年	ポータルでメールする。 または、thiro@LL.u-ryukyuu.ac.jp まで	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>沖縄は、亜熱帯の環境、サンゴ礁の海、といった非常に特色のある自然環境を持っている。この亜熱帯島嶼環境下にある沖縄の自然環境について、特に自然地理的事象を中心に、それを理解するために必要な周辺知識を織り交ぜ、いろいろな話題を取り上げて話をするとともに、ほかの地域との共通性や特異性を見出せるようにする。</p>	<p>この講義を学ぶことで、「地域」の自然環境に関心を持つとともに、旅先やテレビなどのメディアで同様の事象に出会った時に気付けるように、常日頃から比較する目でものごとを見るようにしましょう。また、環境問題など、自然環境と私たち人間とのより良い関係性を考えましょう。</p>

到達目標
<ol style="list-style-type: none"> 1. 亜熱帯島嶼沖縄の自然環境の特徴について、まずは、関心を持つこと。 2. その特徴について、とらえ方（どんな特徴なのか、また、なぜそうなるのか）を理解する。 3. 講義で取り上げなかった場所でも、同じような特徴を持った場所を訪れた時に、その特徴に気づけるようになるよう理解する。 4. これらを達成することで、地元地域「沖縄」の自然環境への理解とともに、ものごとを比較の目で関心を持ってみるができるようになるとともに、人間生活と自然環境との関係性についても考慮することができるようになる。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	学びの手立てを参考にしてください
	2	沖縄の気候の特徴 ー沖縄は亜熱帯か？ その1	学びの手立てを参考にしてください
	3	〃 その2	学びの手立てを参考にしてください
	4	〃 その3	学びの手立てを参考にしてください
	5	島をとりかこむサンゴ礁 ーサンゴ礁とそのなりたち	学びの手立てを参考にしてください
	6	〃 ーサンゴ礁の発達	学びの手立てを参考にしてください
	7	〃 ー沖縄のサンゴ礁 その1	学びの手立てを参考にしてください
	8	〃 ー沖縄のサンゴ礁 その2	学びの手立てを参考にしてください
	9	世界でも珍しい特徴を持った島（南北大東島）の話	学びの手立てを参考にしてください
	10	沖縄に分布する石灰岩とその作る地形 ー石灰岩とカルスト その1	学びの手立てを参考にしてください
	11	〃 ー石灰岩とカルスト その2	学びの手立てを参考にしてください
	12	〃 ー円錐カルスト	学びの手立てを参考にしてください
	13	サンゴ礁地域の地域特性とその変容 その1	学びの手立てを参考にしてください
	14	〃 その2	学びの手立てを参考にしてください
15	まとめ	学びの手立てを参考にしてください	
16	期末試験		

テキスト・参考文献・資料など
<p>”テキストは指定しないが、以下の図書を参考文献として挙げる。 目崎茂和：「琉球弧をさぐる」□あき書房 高橋達郎：「サンゴ礁」□古今書院 サンゴ礁地域研究グループ：「熱い自然」, 「熱い心の島」□古今書院 河名俊男：「琉球列島の地形」新星図書出版 野澤秀樹・堂前亮平・手塚章 編：「日本の地誌10□九州・沖縄」朝倉書店”</p>

学びの手立て
<p>講義日に講義資料を提供するので、それで学習して、課題レポートを期日までに提出すること。課題は、事後学習的なものと事前学習的なものの両方を含む。</p> <p>わからないことは調べ、できる限り早く自分なりの答えを用意する。調べながら見つかった関連事項についても、興味を持って調べることが望ましい。授業に関連するような事柄に、実際の場所やメディア等で出会ったときに、気付くことが出来るよう、日頃から関心を持ってものごとを捉えること。</p>

評価
<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎時間についての課題（約85%） 2. まとめの課題（約15%）

学びの継続
<p>次のステージ・関連科目</p> <p>この講義を地元地域である沖縄の自然環境を理解するための取りかかりとして、自分の将来設計や興味関心に合わせて、科目を選択し勉強してください。また、疑問に思ったことは、わからないままにせず、なるべく速やかに自分なりの理解をするように心がけてください。</p>

※ポリシーとの関連性

沖縄科目群として、沖縄の自然環境、特に地球科学（地形、地質）およびそれに関連した災害について。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の自然環境 I	前期	月 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-渡邊 康志	1年	授業終了後教室にて受け付けます。	

学びの準備	ねらい 沖縄科目群として、沖縄の自然環境、特に地球科学（地形、地質）について習得する。さらにこれらに関連した沖縄の災害についての基礎的知識を学ぶ。講義数日前に講義で使用するパワーポイントデータを公開しますので、webサイトや参考書を利用して、用語などの下調べを行うこと。	メッセージ 沖縄における地球科学および、沖縄で発生する可能性のある災害について学ぼう。
	到達目標 地球科学（地形、地質）やそれらによる自然災害について習得し、沖縄の自然環境を考える基礎知識を習得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション(講義計画、評価方法等の説明) 講義について重要な説明、必ず受講すること	シラバスをよく読むこと
	2	地球科学の基礎知識 地球の内部構造	第1回講義テキストppt資料
	3	地球科学の基礎知識 プレートテクトニクス	第2回講義テキストppt資料
	4	琉球列島の大地形	第3回講義テキストppt資料
	5	琉球列島の地質	第4回講義テキストppt資料
	6	地震の基礎知識	第5回講義テキストppt資料
	7	琉球列島の地震とプレートテクトニクス	第6回講義テキストppt資料
	8	琉球列島の地殻変動	第7回講義テキストppt資料
9	津波の基礎知識	第8回講義テキストppt資料	
10	琉球列島の津波災害	第9回講義テキストppt資料	
11	八重山明和大津波	第10回講義テキストppt資料	
12	地球科学の基礎知識 火山	第11回講義テキストppt資料	
13	琉球列島の火山活動	第12回講義テキストppt資料	
14	直下型地震と活断層	第13回講義テキストppt資料	
15	琉球列島の活断層	第14回講義テキストppt資料	
16			
	テキスト・参考文献・資料など テキスト 講義数日前に講義で使用するパワーポイントデータを公開します。(アドレスはガイダンスでお知らせします) 参考文献 日本の自然地域編 南の島々 岩波書店 九州の大地とともに 築地書館 沖縄県史 県土のすがた 沖縄県教育委員会		
	学びの手立て 自然科学系の一般教養科目や、沖縄科目群の他の講義を合わせて受講してほしい。		
	評価 講義による基礎知識を習得段階を確認するミニレポートを毎講義時提出。提出されたレポートに対し、習得状況及び考察内容にて評価し成績を算出する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 沖縄の自然環境II, および沖縄科目群の他の講義も合わせて受講してほしい。
-------	--

科目基本情報	科目名 沖縄の自然環境Ⅱ	期別 後期	曜日・時限 火1	単位 2
	担当者 -廣瀬 孝	対象年次 1年	授業に関する問い合わせ ポータルでメールする。 または、thiro@LL.u-ryukyuu.ac.jp まで	

学びの準備	ねらい 沖縄は、亜熱帯の環境、サンゴ礁の海、といった非常に特色のある自然環境を持っている。この亜熱帯島嶼環境下にある沖縄の自然環境について、特に自然地理学的事象を中心に、それを理解するために必要な周辺知識を織り交ぜ、いろいろな話題を取り上げて話をするとともに、ほかの地域との共通性や特異性を見出せるようにする。	メッセージ この講義を学ぶことで、「地域」の自然環境に関心を持つとともに、旅先やテレビなどのメディアで同様の事象に出会った時に気付けるように、常日頃から比較する目でものごとを見るようにしよう。また、環境問題など、自然環境と私たち人間とのより良い関係性を考えましょう。今回は、資料を提供して学習してまとめで提出していただく形式になります。
	到達目標 1. 亜熱帯島嶼沖縄の自然環境の特徴について、まずは、関心を持つこと。 2. その特徴について、とらえ方（どんな特徴なのか、また、なぜそうなるのか）を理解する。 3. 講義で取り上げなかった場所でも、同じような特徴を持った場所を訪れた時に、その特徴に気づけるようになるよう理解する。 4. これらを達成することで、地元地域「沖縄」の自然環境への理解とともに、ものごとを比較の目で関心を持ってみるができるようになるとともに、人間生活と自然環境との関係性についても考慮することができるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	学びの手立てを参考にしてください
	2	琉球列島の水文環境 一水文学と水収支	学びの手立てを参考にしてください
	3	〃 一沖縄の水資源と水利用	学びの手立てを参考にしてください
	4	沖縄の土壌 一岩石の風化と赤い土 その1	学びの手立てを参考にしてください
	5	琉球列島の水文環境 一石灰岩地域の水の流れと水利用	学びの手立てを参考にしてください
	6	〃 一地下ダム	学びの手立てを参考にしてください
	7	沖縄の土壌 一岩石の風化と赤い土 その2	学びの手立てを参考にしてください
	8	地形改変（開発）と赤土流出 その1	学びの手立てを参考にしてください
	9	〃 その2	学びの手立てを参考にしてください
	10	〃 その3	学びの手立てを参考にしてください
	11	沖縄の海岸 一砂浜	学びの手立てを参考にしてください
	12	〃 一岩石海岸とノッチ	学びの手立てを参考にしてください
	13	〃 一段丘	学びの手立てを参考にしてください
	14	沖縄の島分類とその特徴 一高島と低島 その1	学びの手立てを参考にしてください
	15	〃 その2 および まとめ	学びの手立てを参考にしてください
16	講義を振り返るまとめの課題		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは指定しないが、以下の図書を参考文献として挙げる。 目崎茂和：「琉球弧をさぐる」?あき書房 高橋達郎：「サンゴ礁」?古今書院 サンゴ礁地域研究グループ：「熱い自然」, 「熱い心の島」?古今書院 河名俊男：「琉球列島の地形」新星図書出版 野澤秀樹・堂前亮平・手塚?章 編：「日本の地誌10?九州・沖縄」朝倉書店
-------	---

学びの実践	学びの手立て 講義日に講義資料を提供するので、それで学習して、課題レポートを期日までに提出する。 課題は、事後学習的なまとめと、事前学習的なものを調べるものの両方を含む。 わからないことは調べ、できる限り早く自分なりの答えを用意する。 調べながら見つかった関連事項についても、興味を持って調べることが望ましい。 授業に関連するような事柄に、実際の場所やメディア等で出会ったときに、気付くことが出来るよう、日頃から関心を持ってものごとを捉えること。
-------	--

学びの実践	評価 1. 毎時間の課題レポート（授業の自分なりのまとめなど） 約80% 15回の課題内、11回以上の課題を提出していない場合は、原則として単位はありません。 2. 講義全体を振り返るまとめレポート、 約20% 課題レポート等の提出期限は、一週間を予定しています。
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 この講義を地元地域である沖縄の自然環境を理解するための取りかかりとして、自分の将来設計や興味関心に合わせて、科目を選択し勉強してください。また、疑問に思ったことは、わからないままにせず、なるべく速やかに自分なりの理解をするように心がけてください。 ほとんどの科目が遠隔授業になり大変ですが、うまく時間をやりくりしていきましょう。
-------	--

※ポリシーとの関連性

沖縄科目群として、沖縄の自然環境、特に地球科学（地形、地質）およびそれに関連した災害について。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の自然環境Ⅱ	後期	月1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-渡邊 康志	1年	授業終了後教室にて受け付けます。	

学びの準備	ねらい 沖縄科目群として、沖縄の自然環境、特に地球科学（気候、地形、土壌）について習得する。さらにこれらに関連した沖縄の災害や特徴的な自然環境についての基礎的知識を学ぶ。講義数日前に講義で使用するパワーポイントデータを公開しますので、webサイトや参考書を利用して、用語などの下調べを行うこと。	メッセージ 沖縄における自然環境について学ぼう。
	到達目標 地球科学（気候、地形、土壌）やそれらによる自然災害、特徴的な沖縄の環境について習得し、沖縄の自然環境を考える基礎知識を習得する。成績評価の方法は、期末試験により判断する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画			
	回	テーマ	時間外学習の内容	
	1	オリエンテーション(講義計画、評価方法等の説明)	講義について重要な説明、必ず受講すること	シラバスをよく読むこと
	2	沖縄の島々と気候		第1回講義テキストppt資料
3	地質時代の環境変遷			第2回講義テキストppt資料
4	気候・気象の基礎知識			第3回講義テキストppt資料
5	コリオリの力と台風			第4回講義テキストppt資料
6	極端化する気候			第5回講義テキストppt資料
7	古気候と氷河時代			第6回講義テキストppt資料
8	河川地形と洪水			第7回講義テキストppt資料
9	土石流			第8回講義テキストppt資料
10	斜面崩壊			第9回講義テキストppt資料
11	沖縄の地形地質と地すべり			第10回講義テキストppt資料
12	沖縄の地形改変			第11回講義テキストppt資料
13	沖積層と沖縄の埋立地			第12回講義テキストppt資料
14	石灰岩とカルスト地形			第13回講義テキストppt資料
15	沖縄の石灰岩と地下水			第14回講義テキストppt資料
16				
	テキスト・参考文献・資料など テキスト 講義数日前に講義で使用するパワーポイントデータを公開します。（アドレスはガイダンスでお知らせします） 参考文献 日本の自然地域編 南の島々 岩波書店 九州の大地とともに 築地書館 沖縄県史 県土のすがた 沖縄県教育委員会			
	学びの手立て 自然科学系の一般教養科目や、沖縄科目群の他の講義を合わせて受講してほしい。			
	評価 講義による基礎知識を習得段階を確認するミニレポートを毎講義時提出。提出されたレポートに対し、習得状況及び考察内容にて評価し成績を算出する。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 沖縄の自然環境Ⅰ，および沖縄科目群の他の講義も合わせて受講してほしい。
-------	--

※ポリシーとの関連性

沖縄の社会について、その言語問題を通して普遍的な反/脱植民地主義の観点からアプローチします。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名 沖縄の社会	期別 後期	曜日・時限 水2	単位 2
	担当者 -知念 ウシ	対象年次 1年	授業に関する問い合わせ	
			質問用紙の提出。同時に、授業終了後にZoomや教室でも受け付けます。	

学びの準備	ねらい 昨今、「しまくとぅばの日」が県議会の条例によって定められるなど、琉球諸語の復興運動がさかんになっています。「沖縄社会が琉球諸語を取り戻す」という課題の歴史的文脈とその持つべき方向性を検討することによって、沖縄の社会について反/脱植民地主義の観点から考えます。	メッセージ 現在の沖縄社会では、日本語をあたり前のように話しますが、このことは本当に当然の、自然なことなのでしょうか。そのことへの違和感があるという学生も、そんなことを考えたこともないという学生も、また、特に自分の祖父母と琉球語で話せるようになりたいという学生の受講を歓迎します。
	到達目標 沖縄で日本語を話すのはあたり前ではない、ということがわかるかもしれません。植民地主義というものへの理解が深まるかもしれません。自分の祖先の言葉が話したくなるかもしれません。沖縄の言語問題は、沖縄だけではなく、世界の植民地の、普遍的な問題だとわかるかもしれません。そして、琉球語が少し話せるようになるでしょう。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	9/30 ガイダンス なぜ言語を通して沖縄社会を考えるのか	講義の全体像をイメージする
	2	10/7 沖縄の未来づくりを考える。琉球諸語の役割、わたしのミッションは何か	受講理由の意識化
	3	10/14 勉強仲間と出会う 琉球諸語の名前	勉強仲間をつくる
	4	10/21 琉球諸語（沖縄語）の映画を見る	琉球諸語との距離感の意識化
	5	10/28 フランツ・ファノン「黒人と言語」	テキストの読み込み
	6	11/4 グギ・ワ・ジオンゴ「アフリカ文学の言語」	テキストの読み込み
	7	11/11 ハワイ先住民族の事例	沖縄との比較を考える
	8	11/25 琉球の言語問題（1）琉球国併合	資料を理解する
9	12/2 琉球の言語問題（2）琉球近現代史	資料を理解する	
10	12/9 文化の爆弾（1）	テキストの読み込み	
11	12/16 琉球諸語と沖縄戦 「シマクトゥバで語るイクサ世」	感想の提出	
12	12/23 文化の爆弾（2）	テキストの読み込み	
13	1/6 Indigenous Peoples（先住民族）論	テキストの理解	
14	1/13 インドで考えたこと	配布資料の読み込み	
15	1/20 まとめ	これまでの資料の復習	
16	1/27 最終試験	冬休みの課題の完成	
実践	テキスト・参考文献・資料など 1、資料・論文は配布します。2、参考文献は以下のとおりです。グギ・ワ・ジオンゴ『精神の非植民地化 アフリカ文学における言語の政治学』第三書館、2010年。フランツ・ファノン『黒い皮膚・白い仮面』みすず書房。野村浩也『無意識の植民地主義 日本人の米軍基地と沖縄人』御茶の水書房、2005年。知念ウシ『ウシがゆく』沖縄タイムス社、2010年。		
	学びの手立て 授業で覚える琉歌、黄金言葉は暗唱できるようにしてください。家族・親戚・近所の方々からそれぞれの琉球諸語を学んでください。沖縄の新聞の「シマクトゥバ関連記事」は必読です。学内外の「シマクトゥバ関連」の講演会、研究会などのイベントにも積極的に参加してください。		
	評価 平常点（受講態度とリアクション・ペーパーへの書き込み内容など）が20点、「ミニレポート課題」の提出と内容評価が20点、最終レポート課題の提出と内容評価（または期末テスト）が60点の配点で評価します。「しまくとぅば検定」に受検合格した場合はボーナス点10点、受検できない場合授業外での琉球諸語に関わるなんらかの活動を報告した場合もボーナス点10点加算します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 新型コロナウイルス感染防止に気をつけながら、ご自分の親や祖父母、近所の方から、それぞれの琉球諸語を学んでください。琉球諸語や沖縄社会に関する他の授業をどんどん受講してください。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の社会	後期	金 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-具志堅 邦子	1年	講義終了後のリアクションペーパーに総合的に答えます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講義では、沖縄の社会における「近代化の過程」に焦点をあてながら、現在の沖縄の社会について考察する。私たちが自明だと思っている「沖縄らしさ」を表象するものが、近代化の過程によってつくられた比較的新しい出来事であることを確認し、「構造」を探る。そのような作業により沖縄の社会の可能性を発見していく。	過去を振り返ることは未来を切り開くことです。沖縄の社会をステレオタイプ化させない、そして容易く消費させないために、一緒に学びましょう。
到達目標	沖縄の社会の表象や出来事を「神話的思考」「プリコラージュ」「非時間性」「シマ社会」「第二のシマ社会」「連結都市圏」「ナショナルリズム」などのキーワードで語れるようになる。特にエイサーという表象をそれらのキーワードで語り、意味づけを深くしていくことができるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(対) ガイダンス、沖縄の社会を考察する視点	シラバスをよく読んでください
	2	(特) 沖縄の社会変動	配布資料を熟読すること
	3	(対) 沖縄の社会構造(1)	配布資料を熟読すること
	4	(特) 沖縄の社会構造(2)	配布資料を熟読すること
	5	(対) 神話的思考と歴史的思考	配布資料を熟読すること
	6	(特) 観察するものを観察する	配布資料を熟読すること
	7	(対) ウチナーンチュの誕生	配布資料を熟読すること
8	(特) ナショナルリズムと沖縄	配布資料を熟読すること	
9	(対) 守姉という存在	配布資料を熟読すること	
10	(特) 連結都市圏の誕生	配布資料を熟読すること	
11	(対) トピック	配布資料を熟読すること	
12	(特) エイサーで読み解く近・現代①	配布資料を熟読すること	
13	(対) エイサーで読み解く近・現代②	配布資料を熟読すること	
14	(特) エイサーで読み解く近・現代③	配布資料を熟読すること	
15	(対) エイサーで読み解く近・現代④	配布資料を熟読すること	
16	課題(テスト)	半期間の総復習	
テキスト・参考文献・資料など	テキストの指定ありません。講義内容は印刷して配布します。配布資料には引用・参考文献を提示していますが、講義の理論となっている主な参考文献は次のとおりです。①クロード・レヴィ＝ストロース『野生の思考』(1976年、みすず書房) ②ベネディクト・アンダーソン『増補想像の共同体』(1983=1997年、NTT出版) ③マックス・ウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』(1989年、岩波文庫)		
学びの手立て	「大きな物語」は終焉したという前提で講義は展開します。したがって、ポストモダンの沖縄の社会をみていきます。		
評価	発見だったこと、感じたことなどをリアクション・ペーパー(授業参加度とする)に書いて提出。授業参加度(約80%)と課題(約20%)で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 参考文献を一冊でも読破することによって次のステージにいけます。挑戦してみてください。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の社会	前期	金 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-具志堅 邦子	1年	講義終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講義では、沖縄の社会における「近代化の過程」に焦点をあてながら、現在の沖縄の社会について考察する。私たちが自明だと思っている「沖縄らしさ」を表象するものが、近代化の過程によってつくられた比較的新しい出来事であることを確認し、「構造」を探る。そのような作業により沖縄の社会の可能性を発見していく。	過去を振り返ることは未来を切り開くことです。沖縄の社会をステレオタイプ化させない、そして容易く消費させないために、一緒に学びましょう。
到達目標	沖縄の社会の表象や出来事を「神話的思考」「プリコラージュ」「非時間性」「シマ社会」「第二のシマ社会」「連結都市圏」「ナショナルリズム」などのキーワードで語れるようになる。特にエイサー文化をそれらのキーワードで語り、意味づけを深くする。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイドダンス、沖縄の社会を考察する視点	シラバスをよく読んでください
	2	はまうりと雛祭り	配布資料を熟読すること
	3	沖縄の社会構造	配布資料を熟読すること
	4	沖縄の宗教構造	配布資料を熟読すること
	5	神話的思考と歴史的思考	配布資料を熟読すること
	6	観察するものを観察する	配布資料を熟読すること
	7	ウチナーンチュの誕生	配布資料を熟読すること
8	連結都市圏の誕生	配布資料を熟読すること	
9	ナショナルリズムと沖縄	配布資料を熟読すること	
10	守姉という存在	配布資料を熟読すること	
11	トピック	配布資料を熟読すること	
12	エイサーで読み解く近・現代①	配布資料を熟読すること	
13	エイサーで読み解く近・現代②	配布資料を熟読すること	
14	エイサーで読み解く近・現代③	配布資料を熟読すること	
15	エイサーで読み解く近・現代④	配布資料を熟読すること	
16	課題(テスト)	半期間の総復習	
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	テキストの指定ありません。講義内容は印刷して配布します。配布資料には引用・参考文献を提示します。講義の理論となっている主な参考文献は次のとおりです。①クロード・レヴィ＝ストロース『野生の思考』（1976年、みすず書房）②ベネディクト・アンダーソン『増補想像の共同体』（1983＝1997年、NTT出版）③マックス・ウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』（1989年、岩波文庫）		
	学びの手立て		
	「大きな物語」は終焉したという前提で講義は展開します。したがって、ポストモダ的に沖縄の社会をみていきます。		
	評価		
	発見だったこと、感じたことなどをリアクション・ペーパー（授業参加度とする）に書いて提出。授業参加度（80%）と課題（20%）で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 参考文献を一冊でも読破することによって次のステージにいけます。挑戦してみてください。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の社会	後期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 一彦	1年	Teams上でのチャット、あるいはメール等で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>当講義で取り扱う「沖縄社会」とは、沖縄を介して形成される社会関係やネットワークを指している。そのような「沖縄社会」の構造と変動を、社会学等の多角的な視点でとらえ、理解することをねらいとしている。</p> <p>到達目標 沖縄の社会構造と変動について社会学的な視点とともに習得すること。</p>	<p>当講義では社会学の基本的な視点を取り入れるので、ミクロな視点に基づいて身近な素材を取り上げていきます。沖縄社会を構成するあなた自身を理解するための手がかりとして、自分の足もとの沖縄社会を理解していきましょう。※この科目は全15回を遠隔授業（Teams）で行います。Teamsに参加する方法は、第1回目の講義（9月29日）までにポータル「授業連絡」でお知らせします。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) 日本の近代化と沖縄社会の諸相① — 「人類館事件」がもたらしたもの	近代国家と博覧会の意味を調べる
	2	(特) 日本の近代化と沖縄社会の諸相② — 沖縄の労働力流出と大都市集住地域の形成	差別と生活改善運動について調べる
	3	(特) 米軍統治下における沖縄社会の諸相① — 基地移設・建設、基地労働から見える人種化	軍事基地の社会的問題を調べる
	4	(特) 米軍統治下における沖縄社会の諸相② — 那覇と浦添から都市社会の変遷を考える	身近な都市化の特徴を調べる
	5	(特) 米軍統治下における沖縄社会の諸相③ — ジェンダー化された都市としてのコザ	植民地主義と性差別の問題を考える
	6	(特) 米軍統治下における沖縄社会の諸相④ — 「コザ騒動」という回路が開くもの	コザの人種問題について調べる
	7	(特) 沖縄社会を考えるミニ課題の公表	ふりかえりと課題内容の告知
	8	(特) 現代沖縄社会の諸相① — 「笑い」から考える沖縄社会	沖縄の「笑い」の変遷を考える
	9	(特) 現代沖縄社会の諸相② — マンガから考える沖縄イメージ	沖縄を表象する作品を調べる
	10	(特) 現代沖縄社会の諸相③ — 沖縄の若者と県外就職・Uターン	沖縄社会の「居心地」を考える
	11	(特) 現代沖縄社会の諸相④ — 無印化する「ショッピングモール社会」沖縄	沖縄の「無印都市」の特徴を調べる
	12	(特) 現代沖縄社会の諸相⑤ — オキナワン・チルダイとしての「気散じ」「身散じ」	無印都市の沖縄人の特徴を考える
	13	(特) 現代沖縄社会の諸相⑥ — 沖縄の貧困と家族問題	経済的、社会的貧困を調べる
	14	(特) 現代沖縄社会の諸相⑦ — 沖縄の地域社会から「見えるもの」と「見えないもの」	ユイマール社会の危機を考える
15	(特) 講義の総括と期末課題について	講義のふりかえりと期末課題告知	
16	予備日	期末課題作成	

テキスト・参考文献・資料など
 テキストの指定はとくにないので、参考文献・資料などを適宜紹介していく。

学びの手立て
 リアクション・ペーパーは平常点の重要なポイントとなるので、面倒くさがらずに書き込むこと。大学は「学力」（ジェネリック・スキル）を養うところ。その重要なポイントは「リサーチ・リテラシー」（高度かつ適切な情報収集と処理能力）となる。よって、課題に取り組む際は、インターネットの情報に頼りすぎないこと。インターネット情報を分析せずに、鵜呑みにして使用した場合は、減点の対象となる。

評価
 Teamsへの接続状況とリアクション・ペーパーへの書き込み内容など平常点が20点、「沖縄社会を考えるミニ課題」の提出と内容評価が30点、期末レポート課題の提出と内容評価が50点という構成で総合評価する。

学びの継続
 次のステージ・関連科目
 関連科目：沖縄科目群の他の科目
 各学科専門教育の予備知識として

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の宗教	前期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-加治 順人	1年	授業前後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>沖縄で信仰されているさまざまな宗教・信仰について広く全体的な知識を獲得する。単なる教養や知識としてではなく、現在もお私たちの社会や文化に深く根差している価値観や慣習として理解を深めることで、各々の専門分野や職業生活を豊かなものにしてほしい。また、授業で学んだことを身近な事例と関連づけて掘り下げ、レポートの形で考察をまとめてもらう。</p>	<p>講師は沖縄県護国神社の神職を本業とし、その経験をもとに具体的な事例を盛り込んで、沖縄の民間信仰（マブイ、ユタ、ノロ、火の神、位牌）や外来宗教（仏教、神道、道教、キリスト教、新宗教）などについて歴史・理論・実践をわかりやすく解説します。</p>
到達目標	<p>沖縄に暮らす者にとって身近な信仰や宗教のありようを知ることで、沖縄の文化や歴史への理解を深め、これからの生活にいかすことができるようになる。それは単に「伝統」や「慣習」なるものの「正しさ」を知って従うことを意味するわけではない。何が宗教や信仰や文化の「本質」であるかを自分の頭で理解して、自分にとって何が必要で何が不要か、何が自分を支えるのか、何が自分を呪縛し脅かすものかを判断し、取捨選択できる賢い社会人になることが長期的な目標である。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	沖縄固有の信仰（セヂとマブイ）	指定した資料を事前に読む
3	沖縄固有の信仰（ユタ）	同上	
4	沖縄固有の信仰（ノロ）	同上	
5	沖縄固有の信仰（火の神）	同上	
6	沖縄固有の信仰（位牌）	同上	
7	沖縄固有の信仰（墓と葬制）	同上	
8	沖縄固有の信仰（御嶽信仰）	同上	
9	沖縄固有の信仰（イザイホー）	同上	
10	沖縄の年中行事	同上	
11	外来宗教（仏教）	同上	
12	外来宗教（神道）	同上	
13	外来宗教（道教）	同上	
14	外来宗教（キリスト教）	同上	
15	外来宗教（新宗教）	同上	
16	まとめ	レポートを作成する	
実践	テキスト・参考文献・資料など	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストは使用しない。参考文献を紹介することがある。 ・適宜プリント資料を配布する。 	
	学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・私語厳禁。受講者が多い大教室の授業なので、授業の妨げになる私語は退席を求めます。 ・授業期間中に何度か小レポートを書いてもらいます。 ・配布資料には必ず目を通していき、紹介した文献もなるべく読んでもらいたい。 ・「沖縄の歴史」を事前に受講しておくことが望ましい。 ・社会文化学科（民俗学専攻）の学生は1年次に受講することが望ましい。 	
	評価	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学期末レポート（70%） 2. 小レポート（30%） 3. 出席点は原則として加味しないが、欠席が5回以上になると「不可」とする。 	

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目として「沖縄の民俗」を受講することを勧めたい。宗教や信仰について、「伝統」や迷信に惑わされない判断力を身につけてもらいたい。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の宗教	前期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-加治 順人	1年	授業前後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>沖縄で信仰されているさまざまな宗教・信仰について広く全体的な知識を獲得する。単なる教養や知識としてではなく、現在もなお私たちの社会や文化に深く根差している価値観や慣習として理解を深めることで、各々の専門分野や職業生活を豊かなものにしてほしい。また、授業で学んだことを身近な事例と関連づけて掘り下げ、レポートの形で考察をまとめてもらう。</p>	<p>講師は沖縄県護国神社の神職を本業とし、その経験をもとに具体的な事例を盛り込んで、沖縄の民間信仰（マブイ、ユタ、ノロ、火の神、位牌）や外来宗教（仏教、神道、道教、キリスト教、新宗教）などについて歴史・理論・実践をわかりやすく解説します。</p>
到達目標	<p>沖縄に暮らす者にとって身近な信仰や宗教のありようを知ることで、沖縄の文化や歴史への理解を深め、これからの生活にいかすことができるようになる。それは単に「伝統」や「慣習」なるものの「正しさ」を知って従うことを意味するわけではない。何が宗教や信仰や文化の「本質」であるかを自分の頭で理解して、自分にとって何が必要で何が不要か、何が自分を支えるのか、何が自分を呪縛し脅かすものかを判断し、取捨選択できる賢い社会人になることが長期的な目標である。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	指定した資料を事前に読む
	2	沖縄固有の信仰（セヂとマブイ）	同上
3	沖縄固有の信仰（ユタ）	同上	
4	沖縄固有の信仰（ノロ）	同上	
5	沖縄固有の信仰（火の神）	同上	
6	沖縄固有の信仰（位牌）	同上	
7	沖縄固有の信仰（墓と葬制）	同上	
8	沖縄固有の信仰（御嶽信仰）	同上	
9	沖縄固有の信仰（イザイホー）	同上	
10	沖縄の年中行事	同上	
11	外来宗教（仏教）	同上	
12	外来宗教（神道）	同上	
13	外来宗教（道教）	同上	
14	外来宗教（キリスト教）	同上	
15	外来宗教（新宗教）	同上	
16	まとめ	レポートを作成する	
テキスト・参考文献・資料など	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストは使用しない。参考文献を紹介することがある。 ・適宜プリント資料を配布する。 		
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・私語厳禁。受講者が多い大教室の授業なので、授業の妨げになる私語は退席を求めます。 ・授業期間中に何度か小レポートを書いてもらいます。 ・配布資料には必ず目を通していき、紹介した文献もなるべく読んでもらいたい。 ・「沖縄の歴史」を事前に受講しておくことが望ましい。 ・社会文化学科（民俗学専攻）の学生は1年次に受講することが望ましい。 		
評価	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学期末レポート（70%） 2. 小レポート（30%） 3. 出席点は原則として加味しないが、欠席が5回以上になると「不可」とする。 		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目として「沖縄の民俗」を受講することを勧めたい。宗教や信仰について、「伝統」や迷信に惑わされない判断力を身につけてもらいたい。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の政治	前期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-宮城 修	1年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	主に戦後、沖縄がアメリカに統治されていた時代（1945～1972年）を扱います。さまざまな権利が制限される中で、沖縄住民が自治権の獲得や主席公選、施政権返還（日本復帰）を求めて行動した過程を学ぶことで、「沖縄の政治」について理解を深める。	18歳選挙権が認められました。「沖縄の政治」を通じて、民主主義の根幹ともいえる政治に関心を持もらい、選挙を身近に感じてほしい。
到達目標	本講義は毎回、新聞、映像、外交文書などの一次資料を用意します。これらの資料を読み込んで、政治に関心を持つことを目標としています。毎回資料を読み込み感想を提出するので、短時間で自分の考えがまとめられるようになります。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス／新聞を読む	新聞、配付資料の読み込み
	2	新聞を読む／個別テーマ：忘れられた島	同上
	3	新聞を読む／個別テーマ：屈辱の日	同上
	4	新聞を読む／個別テーマ：島ぐるみ闘争	同上
	5	新聞を読む／個別テーマ：祖国復帰協議会発足（宮森小ジョット機墜落）	同上
	6	新聞を読む／個別テーマ：2.1決議（キャラウェイ旋風）	同上
	7	新聞を読む／個別テーマ：佐藤首相来沖	同上
	8	新聞を読む／個別テーマ：教公2法	同上
	9	新聞を読む／個別テーマ：主席公選	同上
	10	新聞を読む／個別テーマ：2・4ゼネスト	同上
	11	新聞を読む／個別テーマ：コザ騒動	同上
	12	新聞を読む／個別テーマ：毒ガス移送（プロジェクト112）	同上
	13	新聞を読む／個別テーマ：国政参加	同上
14	新聞を読む／個別テーマ：「建議書」から日本復帰	同上	
15	新聞を読む／個別テーマ：沖国大ヘリ墜落	同上	
16	予備日	同上	
テキスト・参考文献・資料など	授業の中で紹介します。主なテキストは『一条の光 屋良朝苗日記』（琉球新報社、2015年）、中野好夫、新崎盛暉著『沖縄戦後史』（岩波新書、1976年）など。		
学びの手立て	授業の中で紹介します。主なテキストは『一条の光 屋良朝苗日記』上下（琉球新報社）、『不屈 瀬長亀次郎日記』1部-3部（琉球新報）中野好夫、新崎盛暉著『沖縄戦後史』（岩波新書、1976年）など。		
評価	毎回提出する感想、期末レポートで評価します。配分は感想60%（15回×4点）、レポートの評価が40%。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目として「沖縄の基地問題A」「沖縄の歴史II（近現代）」「沖縄戦」
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の政治	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-宮城 修	1年	10月1日、11月26日、1月28日の3回は対面授業とし、それ以外はメール。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	主に戦後、沖縄がアメリカに統治されていた時代（1945～1972年）を扱います。さまざまな権利が制限される中で、沖縄住民が自治権の獲得や主席公選、施政権返還（日本復帰）を求めて行動した過程を学ぶことで、「沖縄の政治」について理解を深める。	18歳選挙権が認められました。「沖縄の政治」を通じて、民主主義の根幹ともいえる政治に関心を持もらい、選挙を身近に感じてほしい。
到達目標	本講義は毎回、新聞、外交文書などの一次資料を用意します。これらの資料を読み込んで、政治に関心を持つことを目標としています。毎回資料を読み込み感想を提出するので、短時間で自分の考えがまとめられるようになります。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイドランス／新聞を読む	新聞、配付資料の読み込み
	2	新聞を読む／個別テーマ：忘れられた島	同上
	3	新聞を読む／個別テーマ：屈辱の日	同上
	4	新聞を読む／個別テーマ：島ぐるみ闘争	同上
	5	新聞を読む／個別テーマ：復帰協発足（宮森小ジョット機墜落）	同上
	6	新聞を読む／個別テーマ：2・1決議（キャラウェイ旋風）	同上
	7	新聞を読む／個別テーマ：佐藤首相来沖	同上
8	新聞を読む／個別テーマ：教公2法	同上	
9	新聞を読む／個別テーマ：主席公選	同上	
10	新聞を読む／個別テーマ：2・4ゼネスト	同上	
11	新聞を読む／個別テーマ：コザ騒動	同上	
12	新聞を読む／個別テーマ：毒ガス移送（プロジェクト112）	同上	
13	新聞を読む／個別テーマ：国政参加	同上	
14	新聞を読む／個別テーマ：「建議書」から日本復帰	同上	
15	新聞を読む／個別テーマ：沖国大ヘリ墜落	同上	
16	予備日	同上	
実践	テキスト・参考文献・資料など 毎回テキストを用意します。		
学びの手立て	授業の中で紹介します。主な参考文献は『一条の光 屋良朝苗日記』上下（琉球新報社）、『不屈 瀬長亀次郎日記』1部-3部（琉球新報）中野好夫、新崎盛暉著『沖縄戦後史』（岩波新書、1976年）など。		
評価	毎回提出する感想、期末レポートで評価します。配分は感想60%（15回×4点）、レポートの評価が40%。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目として「沖縄の基地問題A」「沖縄の歴史II（近現代）」「沖縄戦」
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の地理	後期	木5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	崎浜 靖	1年	sakahama@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義では、沖縄の自然・文化に関わる地理的事象について、島嶼地理学の視点から講義を進める予定である。とくにここ沖縄では、亜熱帯の自然環境のなかで、それに適応しながら多様な文化が紡ぎだされている。本講義では、人々の暮らしの変化から、自然と人間の関係、そして「島嶼」としての「沖縄」を考えてみたい。	メッセージ 沖縄県における多様な地理的環境について、地図資料、スライド・映像資料を用いながら、わかりやすく講義します。
	到達目標 沖縄県の多様な地理的環境を理解する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(対) 講義ガイダンス	事前に配ったプリントを読むこと
	2	(特) 沖縄の自然地理①－気候・気象－	同上
	3	(特) 沖縄の自然地理②－地形・地質・土壌－	同上
	4	(特) 沖縄の自然地理③－水文環境と水利用－	同上
	5	(特) 沖縄の文化地理①－村落の立地と景観－	同上
	6	(特) 沖縄の文化地理②－村落の社会構造－	同上
	7	(特) 沖縄の文化地理③－村落空間と地名表記－	同上
	8	(対) 沖縄の社会地理①－都市空間（沖縄コナベーション）の形成－	同上
	9	(特) 沖縄の社会地理②－都市への人口移動－	同上
	10	(特) 沖縄の社会地理③－沖縄本島周辺離島の地域構造－	同上
	11	(特) 宮古諸島の地誌①－自然環境と集落立地－	同上
	12	(特) 宮古諸島の地誌②－中心地（マチ）の特性－	同上
	13	(特) 八重山諸島の地誌①－自然環境と集落立地－	同上
	14	(特) 八重山諸島の地誌②－中心地（マチ）の特性－	同上
15	(対) まとめ	同上	
16			
テキスト・参考文献・資料など 【テキスト】 ・特に指定はない。毎回、プリントを配布する。 【参考文献】 ・講義の中で適宜紹介する。			
学びの手立て ・講義中に提示された課題を整理し、レポートを提出すること。			
評価 ・対面授業での参加態度とレポートによって評価する。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 ・現在の沖縄県の地理的特異性が理解できる。他の沖縄関係科目と関連づけて学ぶと理解が深まる。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の地理	前期	金2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小川 護	1年	メールでお願いします。 ogawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	琉球列島や沖縄本島をはじめとする、亜熱帯地域「沖縄」における自然環境と人々の生活、文化、産業などについて、地理学の立場からアプローチを行う。講義は郷土「沖縄」が理解しやすいように、パワーポイントやVTRなどの映像資料を活用しながらやさしく行う予定である。	日頃から沖縄に関する出来事について、地図の上で確認する習慣を身につけてください。
到達目標	沖縄の自然環境、社会文化、経済活動について関心をもち、将来のあるべき沖縄県の姿について探求するモチベーションをもってもらう。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	沖縄の地理的位置とその概観【特例授業】	プリントおよび自筆ノートの確認
	2	沖縄の自然環境－地形と土壌－【特例授業】	プリントおよび自筆ノートの確認
	3	沖縄の気候【特例授業】	プリントおよび自筆ノートの確認
	4	沖縄の農業【特例授業】	プリントおよび自筆ノートの確認
	5	沖縄の水産業【対面授業】	プリントおよび自筆ノートの確認
	6	沖縄の鉱工業【特例授業】	プリントおよび自筆ノートの確認
	7	沖縄の商業と交通【特例授業】	プリントおよび自筆ノートの確認
	8	沖縄の都市地域【特例授業】	プリントおよび自筆ノートの確認
	9	沖縄の村落地域【特例授業】	プリントおよび自筆ノートの確認
	10	沖縄の人口移動と移民【特例授業】	プリントおよび自筆ノートの確認
	11	離島地域の自然と人々の暮らし（宮古島地方）【特例授業】	プリントおよび自筆ノートの確認
	12	離島地域の自然と人々の暮らし（八重山地方）【特例授業】	プリントおよび自筆ノートの確認
	13	沖縄の地名と集落【特例授業】	プリントおよび自筆ノートの確認
14	沖縄の基地問題【特例授業】	プリントおよび自筆ノートの確認	
15	これからの沖縄【特例授業】	プリントおよび自筆ノートの確認	
16			
テキスト・参考文献・資料など	<p>地図帳を準備すること。</p> <p>仲田邦彦(2009)沖縄県の地理、編集工房東洋企画。</p> <p>中山満, 堂前亮(1983)沖縄の地理 島の自然と生活 新星出版社</p> <p>シリーズ: 日本の地誌 10 九州・沖縄 朝倉書店</p> <p>堂前亮平(1997)沖縄の都市空間 古今書院</p>		
学びの手立て	<p>沖縄県の地図(できたら中学校、高校で使用した地図帳が望ましい)を準備してください。そして、授業で習った事柄について、地図上で確認、整理を行ってください。</p>		
評価	<p>成績は、レポートで評価する。</p>		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	共通科目:地理学Ⅰ、地理学Ⅱ

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の地理	後期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小川 護	1年	メールでお願いします。ogawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 琉球列島や沖縄本島をはじめとする、亜熱帯地域「沖縄」における自然環境と人々の生活、文化、産業などについて、地理学の立場からアプローチを行う。講義は郷土「沖縄」が理解しやすいように、パワーポイントやVTRなどの映像資料を活用しながらやさしく行う予定である。	メッセージ 日頃から沖縄に関する出来事について、地図の上で確認する習慣を身につけてください。
	到達目標 沖縄の自然環境、社会文化、経済活動について関心をもち、将来のあるべき沖縄県の姿について探求するモチベーションをもってもらう。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	沖縄の地理的位置とその概観【対面授業】	プリントおよび自筆ノートの確認
	2	沖縄の自然環境－地形と土壌－【特例授業】	プリントおよび自筆ノートの確認
	3	沖縄の気候【対面授業】	プリントおよび自筆ノートの確認
	4	沖縄の農業【特例授業】	プリントおよび自筆ノートの確認
	5	沖縄の水産業【対面授業】	プリントおよび自筆ノートの確認
	6	沖縄の鉱工業【特例授業】	プリントおよび自筆ノートの確認
	7	沖縄の商業と交通【対面授業】	プリントおよび自筆ノートの確認
	8	沖縄の都市地域【特例授業】	プリントおよび自筆ノートの確認
	9	沖縄の村落地域【対面授業】	プリントおよび自筆ノートの確認
	10	沖縄の人口移動と移民【特例授業】	プリントおよび自筆ノートの確認
	11	離島地域の自然と人々の暮らし（宮古島地方）【対面授業】	プリントおよび自筆ノートの確認
	12	離島地域の自然と人々の暮らし（八重山地方）【特例授業】	プリントおよび自筆ノートの確認
	13	沖縄の地名と集落【対面授業】	プリントおよび自筆ノートの確認
14	沖縄の基地問題【特例授業】	プリントおよび自筆ノートの確認	
15	これからの沖縄【対面授業】	プリントおよび自筆ノートの確認	
16			
テキスト・参考文献・資料など 地図帳を準備すること。 仲田邦彦(2009)沖縄県の地理、編集工房東洋企画。 中山満，堂前亮(1983)沖縄の地理 島の自然と生活 新星出版社 シリーズ：日本の地誌 10 九州・沖縄 朝倉書店 堂前亮平(1997)沖縄の都市空間 古今書院 平岡 昭利（監修）(2003～2018)離島研究Ⅰ～Ⅴ、海青社			
学びの手立て 沖縄県の地図(できたら中学校、高校で使用した地図帳が望ましい)を準備してください。そして、授業で習った事柄について、地図上で確認、整理を行ってください。			
評価 成績は、レポートで評価する。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 共通科目：地理学Ⅰ、地理学Ⅱ
-------	-------------------------------

科目基本情報	科目名 沖縄の美術・工芸	期別 後期	曜日・時限 土2	単位 2
	担当者 -赤嶺 善雄	対象年次 1年	授業に関する問い合わせ	
			授業終了後に Email で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 先史時代から古琉球時代～近世琉球～近代沖縄～戦後沖縄と、時代を経て作り続けられてきた造形物（美術や工芸）のうち、特に工芸について、なかでも陶芸・漆芸・ガラス工芸を中心に、歴史的経緯に沿って見ていきます。琉球・沖縄の美術・工芸の概要を知ること、この分野あるいは他領域での、より詳細な知識獲得への意欲や、研究意欲の喚起につなげられれば良いと考えています。	メッセージ それにしても美術とは何でしょう。工芸とは？ 美術工芸という言葉い方もあります。美術とは何か「知っている」人も、「知っている」と思っている」人も、「知らない」人も、この講義を受講することでこれまでの考えが変わってしまうかもしれません。でも、違った見方ができるようになれば、それは進化、成長したと言えるでしょう。沖縄について学ぶ一つのきっかけになれば幸いです。
	到達目標 ・通説を疑い、自分なりの仮説を立てることができる。 ・配布資料の内容を理解し、そのことを自分の言葉で文章化しレスポンスできる。 ・美術・工芸について興味関心を持ち、展覧会等へ足を運ぶようになる。また、そこで得た感想などを自分の言葉で文章化でき、他者へ伝達できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) オリエンテーション	シラバスを読んでおく
	2	(特) 沖縄の歴史と美術について	配布資料を読んで復習するとよい
	3	(特) 先史時代から古琉球時代の土器の文化について	配布資料を読んで復習するとよい
	4	(特) グスク(城)について	配布資料を読んで復習するとよい
	5	(特) 古琉球時代の漆芸について	配布資料を読んで復習するとよい
	6	(特) 古琉球時代から近世琉球時代の漆芸(螺鈿)について	配布資料を読んで復習するとよい
	7	(特) 古琉球時代から近世琉球時代の織物(上布)について	配布資料を読んで復習するとよい
	8	(特) 古琉球時代から近世琉球時代の織物(芭蕉布)について	配布資料を読んで復習するとよい
	9	(特) 古琉球時代から近世琉球時代の織物(首里織)について	配布資料を読んで復習するとよい
	10	(特) 古琉球時代から近世琉球時代の金属工芸について	配布資料を読んで復習するとよい
	11	(特) 近世琉球時代の古窯について	配布資料を読んで復習するとよい
	12	(特) 近世琉球時代の漆芸について	配布資料を読んで復習するとよい
	13	(特) 壺屋焼について	配布資料を読んで復習するとよい
	14	(特) 近現代沖縄の漆芸について	配布資料を読んで復習するとよい
	15	(特) 戦前・戦後の壺屋焼、沖縄のガラス工芸について	配布資料を読んで復習するとよい
	16	(特) テスト	配布資料を読んで復習するとよい
	テキスト・参考文献・資料など テキストはありません。 参考文献として、株式会社東京美術発行「すぐわかる沖縄の美術」および株式会社秀学社発行「美術資料沖縄県版」を使用し、それらを活用したプリントを資料として配布します。		
	学びの手立て 毎回 Emailでのレスポンスを求めます。それを以て出席の確認をします。提出期間は1週間あります。全体の1/3以上で欠席(つまり、沖国大ポータルの授業連絡が未読)の場合、履修したとみなしません。つまり6回欠席すると履修したとみなされません。美術館や画廊での展示会などに足を運ぶようにするとよいでしょう。		
	評価 毎回のレスポンス(5点満点)×15回・・・75% テスト・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ほかの沖縄科目もできるだけ多く履修し、沖縄についての知識を増やして、生涯にわたって沖縄に興味を持ち続けていただきたいと思います。
-------	---

※ポリシーとの関連性

現在の沖縄の伝統工芸は、周辺諸国との交易を通し、独自性を育みながら発展してきた。それらの視点から歴史的／文化的に学ぶ。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の美術・工芸	前期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	又吉 光邦	1年	matayosi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	沖縄の伝統工芸の中の伝統染織を主に学び、三線についても琉球王府時代の度量衡の観点と風水の観点から学ぶ。	沖縄の伝統工芸は、現在でも立派な産業として成り立っています。地域の伝統や文化を語るようになりましょう。

到達目標	沖縄の伝統工芸や伝統工芸産業についての理解を深め、普及／発展させる方法について自ら考える。
------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	琉球開關について	Google Classroom授業ファイル 1
	2	琉球王府時代の女性の役割（神女の守護する島）・・・をなり神	Google Classroom授業ファイル 2
	3	琉球王府時代の女性の役割（神女の守護する島）・・・オボツカグラ・ニライカナイ	Google Classroom授業ファイル 3
	4	藍について	Google Classroom授業ファイル 4
	5	形付（紅型）の祖と文様	Google Classroom授業ファイル 5
	6	琉球形付（紅型）型紙の文様の出現頻度	Google Classroom授業ファイル 6
	7	琉球形付（紅型）型紙の大きさ	Google Classroom授業ファイル 7
	8	鎌倉芳太郎について	Google Classroom授業ファイル 8
	9	鲁班尺（唐尺）・型紙・首里城・三線	Google Classroom授業ファイル 9
	10	沖縄の三線	Google Classroom授業ファイル10
	11	型紙デザイン	Google Classroom授業ファイル11
	12	クライス・ジオメトリーと王家の形付衣装	Google Classroom授業ファイル12
	13	形付について	Google Classroom授業ファイル13
14	沖縄の染織産業	Google Classroom授業ファイル14	
15	織りと針突（ハジチ）の文様	Google Classroom授業ファイル15	
16			
テキスト・参考文献・資料など			
<p>毎回、授業の内容の講義動画や参考資料をGoogle Classroomにアップロードします。それが、テキストならびに参考資料となります。</p> <p>参考書は、「紅型に秘された祈り」、沖縄教販。「南嶋民俗資料館の古布裂」、南山舎。</p>			
学びの手立て			
<p>パワーポイントやPDFで数多くの画像や動画を提示します。ダウンロードしてしっかりと学習してください。</p>			
評価			
<p>毎回の課題提出：100%</p>			

学びの継続	次のステージ・関連科目
	沖縄関連科目。地域産業系科目。卒業論文。卒業研究。

※ポリシーとの関連性

琉球諸島でつくられた造形物（美術や工芸）について知ることで、この地域の歴史や諸外国とのつながり、文化などが見えてきます。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の美術・工芸	前期	土2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-赤嶺 善雄	1年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	先史時代から古琉球時代～近世琉球～近代沖縄～戦後沖縄と、時代を経て作り続けられてきた造形物（美術や工芸）特に工芸について、なかでも陶芸・漆芸・ガラス工芸を中心に、歴史的経緯に沿って見ていきます。琉球・沖縄の美術・工芸の概要を知ること、この分野あるいは他領域での、より詳細な知識獲得への意欲や、研究意欲の喚起につなげられれば良いと考えています。	それにしても美術とは何でしょう。工芸とは？美術工芸という言い方もあります。美術とは何か？知っている人も、知っている人と思っている人も、知らない人も、この講義を受講することで、これまでの考えが変わってしまうかもしれません。でも、違った見方ができるようになれば、それは進化、成長したと言えるのではないのでしょうか。沖縄について学ぶ1つの契機になれば幸いです。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 通説を疑い、自分なりの仮説を立てることができる。 講義の内容を理解し、そのことを自分の言葉でリアクションペーパー(振り返り)やレポートなどに文章化できる。 美術・工芸について興味関心を持ち、展覧会等へ足を運ぶようになる。また、そこで得た感想などを自分の言葉で文章化でき、他者へ伝達できる。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション / 沖縄の美術・工芸についてのレディネステスト	沖縄の美術・工芸を調べておく
	2	美術とは 工芸とは 美術工芸とは	プリントを読んで復習するとよい
	3	美術史のなかで琉球・沖縄の造形をみてる	プリントを読んで復習するとよい
	4	古琉球の造形	プリントを読んで復習するとよい
	5	↓	プリントを読んで復習するとよい
	6	近世琉球の造形	プリントを読んで復習するとよい
	7	↓	プリントを読んで復習するとよい
	8	近代沖縄の美術・工芸	プリントを読んで復習するとよい
	9	↓	プリントを読んで復習するとよい
	10	↓	プリントを読んで復習するとよい
	11	戦後の沖縄の美術・工芸	プリントを読んで復習するとよい
	12	↓	プリントを読んで復習するとよい
	13	↓	プリントを読んで復習するとよい
14	沖縄の美術・工芸の今後の展開	プリントを読んで復習するとよい	
15	テスト	プリントを読んで復習するとよい	
16	テスト返却と講義のまとめ	出席する方がよい	
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキストはありません。</p> <p>参考文献として、株式会社東京美術発行「すぐわかる沖縄の美術」および株式会社秀学社発行「美術資料沖縄県版」を使用し、それらを活用したプリントを資料として配布します。</p>		
学びの手立て	<p>毎回、講義のリアクションペーパー(振り返り)等の提出物があります。それを以て出席の確認をします。休んでいる友人のものを本人が書いたかのような不正を行なって提出する学生がいました。不正は行なわないでください。全体の1/3以上を欠席した場合、履修したとみなしません。つまり6回欠席すると履修したとみなされません。これは覚えておいてください。45分を超えての遅刻は出席したとみなしません。欠席扱いとします。学びの場にふさわしい真摯な態度で望んでもらいたいです。予習をすることは難しいと思うので復習することが望ましいです。美術館や画廊での展示会などに足を運ぶようにするとよいでしょう。</p>		
評価	<p>毎回のリアクションペーパー(5点満点)×14回・・・70%</p> <p>テスト・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・30%</p>		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	ほかの沖縄科目もできるだけ多く履修し、沖縄についての知識を増やして、生涯にわたって沖縄に興味を持ち続けていただきたいと思います。

※ポリシーとの関連性

琉球・沖縄の美術を通して地域性と国際性を考え、沖縄独自の美意識、概念を知る。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の美術・工芸	後期	火 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-花城 郁子	1年	ptt709@oku.ac.jp	

学びの準備	ねらい 琉球、沖縄の近・現代美術を通して、外部からの影響により内になる気づきをどのように表現してきたか、その美意識、概念を学ぶ。	メッセージ 美術を社会や時代の表象としてとらえ、その時代に生きた人々がどのように表現したかを考えるクラス。美術に興味ある学生、苦手意識を持つ学生も共に考えていく場とする。
	到達目標 文化、知的財産へ興味を持つようになり、創造について造詣を深め、表現者に敬意をはらい、自身の作品鑑賞能力を高める。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	対面 ガイダンス、生成コード : hvsv1ah	身近な美術を探し、感じる
	2	特別 琉球王朝時代の絵画一王の影、御後絵-1	博物館美術館等作品鑑賞
	3	対面 琉球王朝時代の絵画一王の影、御後絵-2	博物館美術館等作品鑑賞
	4	特別 王権の証、ムラの守神、民衆と同居するシーサー	村落、土産品シーサー等チェック
	5	対面 琉球王朝時代の絵画一国家貿易、贈答品としての鑑賞絵画	博物館美術館等作品鑑賞
	6	特別 沖縄県立博物館・美術館の歴史	沖縄以外の美術館にも意識を向ける
	7	対面 琉球・沖縄の陶芸略史 (中間レポート提出予定)	観賞用・生活用陶芸を意識する
	8	特別 戦前戦後の画家一名渡山愛順と大嶺政寛	美術館、公共の場での美術品鑑賞
	9	対面 戦争は画家をどう変えたかー美術村「ニシムイ」	戦争が与える精神文化を考える
	10	特別 外部からの眼差し1ー岡本太郎	日本文化の古層について考える
	11	対面 外部からの眼差し2ー民藝運動家、岡村吉右衛門	琉球の美学について考える
	12	特別 外部からの眼差し3ー民藝運動と作家性、沖縄美術の自律	表現と経済の関わりを考える
	13	対面 内包するものの表現と継承ーキャンプキンサ ー内沖縄戦資料館、ユタが描く絵画	表現と継承について考える
	14	特別 鑑賞法1	鑑賞の手がかりを模索
15	対面 鑑賞法2	鑑賞の手がかりを模索	
16	対面 まとめ (最終レポート提出)	読書、観賞を通して成長を感じる	
テキスト・参考文献・資料など 参考文献などを記載した資料を適宜に配布。 コラージュなどの告知、レポート表紙サンプルなどは各学生へメールにて連絡。			
学びの手立て やる気のある学生。 講義に関係の無いインターネット閲覧、ソフト操作、私語、長時間の居眠りを行った場合は退場を命じる場合があり、またそのような学生には平常点につながるリアクションペーパーを配布しない。			
評価 リアクションペーパー、受講態度 30% : 中間レポート 30% : 最終レポート 40% リアクションペーパー: 内容充実度、好奇心、語彙力、表現力、 レポート: 参考資料、疑問、調査、考察、認識			

学びの継続	次のステージ・関連科目 1) 学生としての知的好奇心、向上心、プライドをもって自身で考え判断して下さい。 2) 文化、美術は世代や地域・民族を越えて伝わり、考えていくもの。人生を通してゆっくり思考・嗜好・試行を構築して下さい。
-------	---

※ポリシーとの関連性

共通教育「沖縄関連科目群」における知識・技能の習得を目指す。
 (沖縄の文化を学ぶ。特に沖縄の文学への理解を深める。)

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の文学	前期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-大城 健	1年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>1. 沖縄の文化と日本の文化を学ぶことで、視野の幅を広める。(特に文学を学ぶことで教養を高め言葉に対する感覚を磨き、豊かな表現力を身につける。)</p> <p>2. 日本文学の中での「沖縄の文学」の位置づけや意義を確認し、作品の時代背景等を学ぶことにより、沖縄と日本、そして世界との関係性を捉える。</p>	<p>沖縄にはどんな文学があるか、「戦前・占領期・復帰後」の作品の推移を学習しながら、作品の時代背景を学ぶ。沖縄の芥川賞受賞作品をはじめとする主要な散文作品を取り上げ、時代背景との関わりのなかで学ぶ。また、韻文作品(詩、短歌、俳句)を学びながら、創作も試みるなかで「沖縄の文学」への理解を深め、その可能性を探る。</p>
到達目標	<p>1. 沖縄の文学作品を学ぶことで、先人の考えや思いを理解し、作品それぞれ時代背景を学ぶことで、これからの生きる指針とすることができる。</p> <p>2. 「戦前・占領期・復帰後」の作品を通して時代や沖縄の歴史を理解することができる。</p> <p>3. 作品を読むことで読書の楽しさをわかり、創作を実践することで、言語感覚を磨くことができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	はじめに「略年表から沖縄文学の足跡をたどる」(『沖縄文学選』より)	作品を読む
	2	戦前の小説を学ぶ「九年母」「奥間巡査」「滅びゆく琉球女の手記」など	作品を読む
	3	アメリカ統治下の芥川賞作品「カクテル・パーティー」「沖縄の少年」	作品を読む
	4	沖縄俳句の概観	沖縄の俳句を調べる
	5	俳句入門講座Ⅰ	資料を読む
	6	俳句入門講座Ⅱ	資料を読む
	7	俳句創作の試み	創作を試みる
8	復帰後の小説Ⅰ 芥川賞作品「水滴」「豚の報い」	作品を読む	
9	復帰後の小説Ⅱ 「風水譚」「権の川」	作品を読む	
10	戦前の琉歌・詩・短歌	戦前の詩・短歌を調べる	
11	山之口獺の詩を学ぶ	山之口獺の詩を調べる	
12	沖縄戦後の詩の世界Ⅰ	資料を読む	
13	沖縄戦後の詩の世界Ⅱ&詩創作の試み	詩を創作する	
14	沖縄戦後の短歌&短歌創作の試み	短歌を創作する	
15	まとめと課題レポートの説明	レポートを書く	
16	課題レポート提出	課題レポートの提出	
テキスト・参考文献・資料など	<p>【テキスト】：新装版『沖縄文学選』－日本文学のエッジからの問い－(岡本恵徳・高橋敏夫・本浜秀彦編・勉誠出版刊・2015年) 【参考文献】：川村湊編『現代沖縄文学作品』(講談社学術文庫) ・大城貞俊著『「沖縄文学」への招待』(琉球大学ブックレット1) ・『山之口獺全集』第1巻 詩編(思潮社) ・『高校生のための沖縄の文学・近現代編』(沖縄県高校組編・沖縄時事出版) ・『沖縄戦後詩史』(大城貞俊著・編集工房 貌) ・『言振り 琉球弧からの詩・文学論』(高良勉・未来社) ・『沖縄俳句総集』(野ざらし延男編) ・その他、適宜に指示する</p>		
学びの手立て	<p>①「履修の心構え」：指定された作品は読んでおくこと。課題レポートは作品に関するものが中心です。</p> <p>②「学びを深めるために」：参考文献や紹介する作品や論文は読んでもらいたい。</p>		
評価	<p>【評価方法】：課題レポート(3回予定)、課題作品(1回)、授業参加状況で評価する。「課題レポート70%、課題作品20%、平常点10%」 (注：授業日数の3分の1を欠席すると、規定により不可となる。3回の遅刻は1回の欠席と見なす。)</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄を舞台にした作品や沖縄出身の作家の作品を読み続けてほしい。新聞の文化欄や書評も参考にしてください。
-------	---

※ポリシーとの関連性

沖縄の文化を学ぶ。特に沖縄の文学への理解を深めると共に、表現力を高め、自己実現力を身につける。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の文学	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-大城 健	1年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>1. 沖縄の文化と日本の文化を学ぶことで、視野の幅を広める。(特に文学を学ぶことで教養を高め言葉に対する感覚を磨き、豊かな表現力を身につける。)</p> <p>2. 日本文学の中での「沖縄の文学」の位置づけや意義を確認していきたい。作品の時代背景を学ぶことにより、沖縄と日本、そして世界との関係性を捉える。</p>	<p>沖縄にはどんな文学があるか、「戦前・占領期・復帰後」の作品の推移を学習しながら、作品の時代背景を学ぶ。沖縄の芥川賞受賞作品をはじめとする主要な散文作品を取り上げ、時代背景との関わりのなかで学ぶ。また、韻文作品(詩、短歌、俳句)を学びながら、創作も試みるなかで「沖縄の文学」への理解を深め、その可能性を探る。</p>
到達目標	<p>1. 沖縄の文学作品を学ぶことで、先人の考えや思いを理解し、作品それぞれ時代背景を学ぶことで、これからの生きる指針とすることができる。</p> <p>2. 「戦前・占領期・復帰後」の作品を通して時代や沖縄の歴史を理解することができる。</p> <p>3. 作品を読むことで読書の楽しさが分かる。また、創作を実践することで、言語感覚を磨くことができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	はじめに「略年表から沖縄文学の足跡をたどる」(『沖縄文学選』より)	作品を読む
	2	戦前の小説を学ぶ「九年母」「奥間巡査」「滅びゆく琉球女の手記」など	作品を読む
	3	アメリカ統治下の芥川賞作品「カクテル・パーティー」「沖縄の少年」	作品を読む
	4	沖縄俳句の概観	沖縄の俳句を調べる
	5	俳句入門講座Ⅰ	資料を読む
	6	俳句入門講座Ⅱ	資料を読む
	7	俳句創作の試み	創作を試みる
	8	復帰後の小説Ⅰ 芥川賞作品「水滴」「豚の報い」	作品を読む
	9	復帰後の小説Ⅱ 「風水譚」「権の川」	作品を読む
	10	戦前の琉歌・詩・短歌	戦前の詩・短歌を調べる
	11	山之口獺の詩を学ぶ	山之口獺の詩を調べる
	12	沖縄戦後の詩の世界Ⅰ	資料を読む
	13	沖縄戦後の詩の世界Ⅱ&詩創作の試み	詩を創作する
14	沖縄戦後の短歌&短歌創作の試み	短歌を創作する	
15	まとめと課題レポートの説明	レポートを書く	
16	授業の総括・振り返り	課題レポートの提出	
テキスト・参考文献・資料など	<p>【テキスト】：新装版『沖縄文学選』—日本文学のエッジからの問い—(岡本恵徳・高橋敏夫・本浜秀彦編・勉誠出版刊・2015年) 【参考文献】：川村湊編『現代沖縄文学作品』(講談社学術文庫) ・大城貞俊著『「沖縄文学」への招待』(琉球大学ブックレット1) ・『山之口獺全集』第1巻 詩編(思潮社) ・『高校生のための沖縄の文学・近現代編』(沖縄県高校組編・沖縄時事出版) ・『沖縄戦後詩史』(大城貞俊著・編集工房 貌) ・『言振り 琉球弧からの詩・文学論』(高良勉・未来社) ・『沖縄俳句総集』(野ざらし延男編) ・その他、適宜に指示する</p>		
学びの手立て	<p>①「履修の心構え」：指定された作品は読んでおくこと。課題レポートは作品に関するものが中心です。</p> <p>②「学びを深めるために」：参考文献や紹介する作品や論文は読んでもらいたい。</p>		
評価	<p>【評価方法】：課題レポート(3回予定)、課題作品(1回)、授業参加状況で評価する。「課題レポート70%、課題作品20%、平常点10%」 (注：授業日数の3分の1を欠席すると、規定により不可となる。3回の遅刻は1回の欠席と見なす。)</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄を舞台にした作品や沖縄出身の作家の作品を読み続けてほしい。新聞の文化欄や書評も参考にしてください。
-------	---

※ポリシーとの関連性

沖縄の民俗事象（信仰・年中行事・人生儀礼など）を理解し、沖縄社会における基本的な知識を修得するための導入科目。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の民俗	前期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-城間 義勝	1年	講義終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 沖縄各地で継承されている伝統的な民俗事象を紹介しながら、そこに住む人々の多様な生活文化を考える。また、自分が住んでいる地域や家族との関係を見つめ直し、自己アイデンティティの確立を目指す。	メッセージ 本講義ではパワーポイントを活用しながら各地で撮影した写真や映像を見ていただきます。分かりやすい講義を心掛けていきたいと思いをします。
	到達目標 ・生まれ育った地域や家族に興味を持つことができる。 ・親族や地域の人々に聞き取り調査（インタビュー）ができるようになる。 ・聞き取り調査を通して、コミュニケーションがスムーズに取ることができる。 ・親族や地域の人々から伝え聞いたことをまとめることができる。 ・沖縄の民俗事象に関する知識を習得し、本土や外国出身者に説明することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義内容の説明	シラバスを読むこと
	2	民俗学と沖縄研究	柳田国男や伊波普猷の著作を読む
	3	村落①（シマ）	住んでいる地域の景観を観察する
	4	村落②（聖地）	地域にある聖地について調べる
	5	村落③（聖地）	同上
	6	住居①	親族が住んでいた住居について聞く
	7	住居②	同上
	8	家族と親族①	家族の繋がりを親族から聞く
	9	家族と親族②	同上
	10	年中行事①	地域・門中・家庭の行事を聞く
	11	年中行事②	同上
	12	年中行事③	同上
	13	人生儀礼①	人生の節目に行われる儀礼を聞く
	14	人生儀礼②	同上
15	民俗調査の報告	民俗調査の手法について調べる	
16	来訪神祭祀	来訪神について調べる	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキストはなし。講義毎にレジュメを配布する。参考文献や資料は講義毎に随時、紹介する。
-------	--

学びの手立て	履修の心構え ・私語は慎む。 ・講義時間（90分）の半分以上の遅刻は欠席とする。就職活動での欠席、体調不良などで欠席の場合は、欠席届を提出する。 ・講義終了時、出席票は最前列の机の上に学部学科ごとに分けて提出する。 学びを深めるために ・本講義を受講するときは、皆さんの住んでいる地域、所属している門中、家庭と比べながら受講してほしい。 ・各講義を受講後、両親や祖父母、地域の先輩たちに講義内容を話しコミュニケーションを取ってもらいたい。
--------	---

評価	授業参加度（48%） レポート（42%） ・15回ある講義の中で、興味を持ったテーマを1つ取り上げ、レポートを作成する。 ・選んだテーマに関して、必ず親・祖父母・地域の先輩方（お年寄り）から話を聞く。 ・他府県出身の生徒や留学生は、出身地と沖縄の民俗文化を比較してもよい。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 沖縄の民俗をより深く理解するためには、沖縄関連の共通科目を受講していただきたい。また、より専門的に沖縄の民俗を学びたい方は、社会文化学科の専門科目を受講していただきたい。
-------	--

※ポリシーとの関連性 沖縄の民俗文化の特色やアジアとの類縁性など身近な事例をとおし
て理解する。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の民俗	前期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-儀間 淳一	1年	授業終了後に教室、またはE-mail等で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 沖縄には先人達から受け継がれてきた民俗文化が存在する。本講義ではその由来や変遷、特色とともに、周辺諸地域との比較によって類縁性や異質性などを学び、自他の民俗文化を理解、尊重できるようにしてほしい。	メッセージ 共通科目なので、各学部・各学年の学生に理解してもらえよう、映像資料などを活用しながら説明します。
	到達目標 沖縄の民俗文化について理解し、県外や海外の人々に説明できる。周辺諸地域との比較によって文化の多様性を理解することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義概要・民俗学とは	レジュメとシラバスを読む
	2	沖縄の村落①（地理的特徴）	地元の集落を歩く
	3	沖縄の村落②（信仰と祭祀組織）	レジュメ・参考文献を読む
	4	沖縄の村落③（社会と経済）	地元の自治会や産業について調べる
	5	年中行事①	家族に家の行事について聞いてみる
	6	年中行事②	家族に家の行事について聞いてみる
	7	フィールドワークとは	レポートのテーマ設定及び調査
	8	人の一生①	家族に人生儀礼について聞いてみる
9	人の一生②	家族に人生儀礼について聞いてみる	
10	祖先崇拝	家の位牌を見る	
11	沖縄のシャーマン	レジュメ・参考文献を読む	
12	外来の信仰①	身近な外来信仰を探す	
13	外来の信仰②	身近な外来信仰を探す	
14	仕事と暮らし	地元の産業について調べる	
15	自然災害と民俗	災害に関する民話を調べる	
16	レポート提出	レポート提出	
実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは使用しません。毎回レジュメを配布します。 参考文献はレジュメで紹介します。		
	学びの手立て 1. 私語など他の学生の迷惑になる行為はやめましょう。 2. 講義日数の3分の1以上無断欠席した場合は不可にします。 3. やむを得ず欠席をする場合には欠席届を提出して下さい。 4. 身近な民俗事象に関心を持ちましょう。		
	評価 1. 出席用紙に講義の感想や質問を書いてもらい、出席状況と授業への参加状況を判断する（30%） 2. レポート形式の試験（70%）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 民俗文化は、自然・歴史・政治・経済・社会など様々な分野が影響しています。そのため、沖縄の民俗文化を深く理解するために「沖縄科目群」「社会生活科目群」「人間文化科目群」の科目を受講することをおすすめします。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の民俗	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-儀間 淳一	1年	授業終了後に教室、またはE-mail等で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 沖縄には先人達から受け継がれてきた民俗文化が存在する。本講義ではその由来や変遷、特色とともに、周辺諸地域との比較によって類縁性や異質性などを学び、自他の民俗文化を理解、尊重できるようにしてほしい。	メッセージ 共通科目なので、各学部・各学年の学生に理解してもらえよう、映像資料などを活用しながら説明します。
	到達目標 沖縄の民俗文化について理解し、県外や海外の人々に説明できる。周辺諸地域との比較によって文化の多様性を理解することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(対) 講義概要・民俗学とは	配付資料を熟読
	2	(特) 沖縄の村落① (地理的特徴)	地元の集落を歩いてみる
	3	(対) 沖縄の村落② (信仰と祭祀組織)	配付資料・参考文献を熟読
	4	(特) 沖縄の村落③ (社会と経済)	同上
	5	(対) 年中行事①	家族に家の行事について聞いてみる
	6	(特) 年中行事②	同上
	7	(対) 年中行事③・レポートの説明	同上・レポートのテーマ検討
	8	(特) 人の一生①	家族に人生儀礼について聞いてみる
	9	(対) 人の一生②	同上
	10	(特) 祖先崇拝	配付資料・参考文献を熟読
	11	(対) 沖縄のシャーマン	同上
	12	(特) 外来の信仰①	身近な外来信仰を探す
	13	(対) 外来の信仰②	同上
	14	(特) 仕事と暮らし	地元の産業について考える
	15	(対) 自然災害と民俗	災害に関する民話を調べる
	16	予備	
	テキスト・参考文献・資料など テキストは使用しません。毎回レジュメを配布します。 参考文献はレジュメで紹介します。		
	学びの手立て 1. 特例 (遠隔) 授業はMicrosoft Teamsを使用しますので、アプリをダウンロードしてください。詳細はポータルでお知らせします。 2. 講義日数の3分の1以上無断欠席した場合は不可にします。やむを得ず欠席をする場合には欠席届を提出して下さい。		
	評価 1. 平常点 (45点) 毎回講義の感想や質問を提出してもらい、出席状況と授業への参加状況を判断します。 2. レポート (55点) 講義で取り上げたテーマのなかから関心のあるテーマを選んでレポートを作成・提出。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 民俗文化は、自然・歴史・政治・経済・社会など様々な分野が影響しています。そのため、沖縄の民俗文化を深く理解するために「沖縄科目群」「社会生活科目群」「人間文化科目群」の科目を受講することをおすすめします。
-------	---

※ポリシーとの関連性

琉球文化を知る上で、その一つとして沖縄の民話がある。現在では調査困難である県内各地の民話を認知することが大切だと考える。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の民話	前期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	- 袴 晴一郎	1年	講義終了後教室にて行います。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>沖縄の民話は、口承文芸にとどまらず民俗・歴史・地理的環境など様々なものが織り込まれていると考えます。それらをひもといていくと沖縄、琉球のグローバルは大昔からあったのだと気づいて欲しい。</p>	<p>毎回提供する資料は、沖縄国際大学の学生達が、大学設立当初から手弁当でフィールドワークを行い、録音し文字化したものである。また、話者として協力された方もほとんどが亡くなっている。それだけ貴重なものであると認識して講義を受けて欲しい。</p>
到達目標	<p>①全てを記憶することは困難だが、どこにどのような民話があったのかを少しでも記憶にとどめて欲しい。②提供された資料を今後将来、紙芝居や絵本などにしたり、また語り手として子ども達に伝承できればなおよい。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・履修上や講義中の注意、評価の付け方などの説明。民話概要その1	柳田國男の著作本を参照
	2	民話の概要その2	講義で紹介された書物を参照
	3	神話その1	日本神話や他国の神話との比較
	4	伝説その1	伝説と神話の違いを参照
	5	伝説その2	他県の民話集の伝説と比較
	6	伝説その3	他県の民話集の伝説と比較
	7	伝説その4	他県の民話集の伝説と比較
	8	昔話 動物昔話その1	他県の動物昔話と比較参照
	9	昔話 動物昔話その2	他県の動物昔話と比較参照
	10	昔話 本格昔話その1	他県の本格昔話と比較参照
	11	昔話 本格昔話その2	他県の本格昔話と比較参照
	12	昔話 本格昔話その3	他県の本格昔話と比較参照
	13	昔話 本格昔話その4	他県の本格昔話と比較参照
14	昔話 笑い話その1	他県の笑い話と比較する	
15	昔話 笑い話その2	他県の笑い話と比較する	
16	沖縄に伝わる星の話、まとめ・レポート提出	全国の「昔話通関」を参照する	
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキストは使用しません。毎回の講義で資料を提供します。受講生の人数分しか印刷しないので紛失しないこと。また、欠席する学生は友人に頼んで貰っておくこと。</p>		
学びの手立て	<p>沖縄の民話を聞く中で、琉球語や民俗行事が時々出てきます。なるだけ説明しますが、前もって知っておいた方がより知識が深まるでしょう。また、伝承系譜を考えると、民俗や民族、地理歴史などにも興味を持っていた方がなるほどと思うでしょう。講義の形態としては講師が一方的に説明する形なので、居眠りをしやすい学生やおしゃべりをする学生は登録を遠慮した方がいいでしょう。</p>		
評価	<p>毎回、その民話講義の中で学問的に感じたこと、気づいたことなどを簡潔に書いて提出すること。その内容に応じて平常点とします。評価は、平常点が全体で最大75点、レポート点を最大25点として満点の100点。但し欠席を5回した学生は「単位修得無し」として、レポート提出資格が無くなります。また、レポート提出無しも「不可」とします。遅刻はその都度2点減点とします。代理出席やその他不正をした者はその場で「不可」とします。この講義はいかにたくさんの沖縄の民話に接するかが肝要です。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>沖縄関係の科目は当然だが、世界各地の人類の民俗や歴史などにも関連する学問に接して欲しい。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性 琉球併合から現代にいたる沖縄の歴史を理解することで、沖縄を取り巻く諸問題に向き合うための基礎学力を習得する。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の歴史Ⅱ (近現代)	後期	火 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-新城 俊昭	1年	E-mail:aragusuku1013@yahoo.co.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>1 本講座では、近代沖縄から現代沖縄までの歴史を概説的に学習する。また、時代と関連するヒト・モノにも焦点をあてる。</p> <p>2 日本史や世界史で学んだ知識に琉球・沖縄史の視点を組み込むことで、歴史の本質を見極める目を養う。</p> <p>3 沖縄という地域で独自の歴史を形成した先人の足跡を学ぶことで、沖縄人(カナンチュ)としてのアイデンティティの確立を図る。</p>	<p>沖縄学の父・伊波普猷は「汝の立つところを深く掘れ、そこには泉あり」というドイツの哲学者ニーチェの言葉を引用して、沖縄の歴史や文化を学ぶことの大切さを説いている。自らの生まれ育った地域には、先人の知恵や自分自身の存在理由を解き明かしてくれるヒントが埋まっているからだ。本講座で、ウチナンチュのアイデンティティについて学習を深めてほしい。</p>
到達目標	<p>1 琉球国がどのように崩壊して明治政府に併合されたのかを学ぶことにより、現代沖縄の諸問題に向き合う基礎的教養を身につけることができる。</p> <p>2 近代沖縄の人々がどのように日本へ同化・皇民化されたのかを学ぶことにより、現代ウチナンチュのアイデンティティを考える手だてすることができる。</p> <p>3 沖縄戦の実相を追及することで住民を守らない軍隊の本質を知ることができ、反戦・平和の思想を高めることができる。</p> <p>4 日本復帰運動や現代の基地問題等を学ぶことにより、沖縄の将来像を描くための基礎的教養を身につけることができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(対) 授業を始めるにあたって。明治政府による琉球併合	
	2	(特) 旧慣温存策と沖縄県政—沖縄民衆は世替わりをどう受け止めたか	テキスト 第6章の1
	3	(対) 謝花昇の民権運動と人頭税廃止運動—県民は権利をどう獲得したか	テキスト 第6章の2, 3
	4	(特) 昭和恐慌と移民—ソツツ地獄とはどのような社会状況か	テキスト 第6章の4
	5	(対) 軍国主義の台頭—15年戦争はどのように始まったか	テキスト 第7章の1
	6	(特) 戦時体制と県民の暮らし—標準語励行運動がもたらしたものは何か	テキスト 第7章の2
	7	(対) アジア太平洋戦争と沖縄—日本はなぜ米国と戦争を始めたか	テキスト 第7章の3
	8	(特) 沖縄戦前夜(対馬丸事件, 10・10空襲)—沖縄戦はなぜ起こったか	テキスト 第7章の4
	9	(対) 沖縄戦の実相—沖縄戦から何を学ぶか	テキスト 第7章の5
	10	(特) 米軍支配のはじまり—戦後の焼け跡からどのように立ち上がったか	テキスト 第8章の1
	11	(対) 琉球政府の設立—島ぐるみ闘争はなぜ起こったか	テキスト 第8章の2
	12	(特) 日本復帰運動—沖縄住民はなぜ日本復帰を望んだか	テキスト 第8章の3
	13	(対) 新生沖縄県—日本復帰で何が変わったか	テキスト 第9章の1, 2
	14	(特) 現代の沖縄—基地問題など現代沖縄の課題にどう立ち向かうか	テキスト 第9章の3, 4
15	(対) 琉球・沖縄の歴史と文化のまとめ	試験勉強	
16	(対) 期末考査		

テキスト・参考文献・資料など

テキスト：新城俊昭『教養講座 琉球・沖縄史』 編集工房東洋企画発行 2014年 1200円(学生価格)。
 参考文献：新城俊昭『沖縄から見える歴史風景』 編集工房東洋企画発行 2010年。新城俊昭『琉球・沖縄 歴史人物伝』 沖縄時事出版 2007年。新城俊昭『戦後100年へのメッセージ 2045年のあなたへ』 時事出版発行 2016年。
 その他、必要に応じて資料を配布。

学びの手立て

- ・授業はシラバスに記した内容を教科書に沿って進めるので、必ず教科書を購入して予習し、授業に臨むようにすること。
- ・毎時間、本時の学習内容をまとめたワークシートと関連資料を配布して授業を進めるので、ワークシートに空欄の無いようしっかりとまとめ、ファイルに整理すること。また、ワークシートに記載されていない事項は余白を利用してメモをするなど、各自で工夫すること。
- ・授業の最後には簡単なテストを実施するので、ワークシートの書き込みを怠らないこと。
- ・欠席の場合は、公欠・病欠にかかわらず事前に届け出ること。事情があって事前に届け出ることができなかった場合は、理由を付記して速やかに届け出ること。

評価

評価は毎時間の授業に対する取り組み、課題(レポート形式)、確認試験で行う。
 配分は、毎時間の授業評価(小テスト形式)30%、課題(フィールドワークのレポート)30%、確認試験(予め与えた問題プリントから出題)40%。また、授業に取り組む姿勢や意欲も評価の対象とし、場合によっては加点・減点することもある。

学びの継続

次のステージ・関連科目

(1) 関連科目：沖縄の歴史Ⅰ「類似科目」：沖縄近現代史Ⅰ・Ⅱ「上位科目」：沖縄の経済、沖縄の政治、沖縄戦、沖縄の基地問題A・B、卒業論文
 (2) 次のステージ：興味・関心をもった歴史事象について戦争遺跡や平和祈念資料館・県立博物館などの施設で学習を深める。基地問題など現代沖縄の諸問題について学習を深める。

※ポリシーとの関連性 本学のポリシーにうたわれている”自らが生きる社会をより深く理解するため”の一助となる様な講義を行います。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の歴史Ⅱ（近現代）	前期	土2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-伊敷 勝美	1年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 明治期から日本復帰前後までの沖縄の歩みを概論します。その時代の動きや住民にも焦点をあて、沖縄歴史の「見方」をさまざまな側面から捉えることができると考えます。	メッセージ 学生との対話を意識した講義を心がけますので、積極的な授業への参加を期待します。私語や他の受講生の学習を妨げるような事は認めませんので留意してください。
	到達目標 沖縄社会を理解する一手段のひとつとして、位置づけます。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	エイサー	講義資料の熟読
	2	琉球処分（廃琉置県）前夜	講義資料の復習と参考資料の確認
	3	沖縄移民①	同上
	4	沖縄移民②－国策移民	同上
	5	沖縄戦後移民	同上
	6	沖縄戦への道①	同上
	7	沖縄戦への道②	同上
	8	沖縄への戦後引き揚げ①	同上
9	沖縄への戦後引き揚げ②	同上	
10	沖縄の戦後復興と基地建設	同上	
11	都市建設と特飲街（繁華街）①②	同上	
12	コザ「暴動」1970年12月20日	同上	
13	毒ガス漏れ事故と移送	同上	
14	復帰前後の沖縄	同上	
15	テスト		
16			
実践	テキスト・参考文献・資料など 特定の教科書は使用せず、毎回、レジュメを作成・配布します。またテーマによって、新聞資料・映像資料等も利用します。参考文献は、レジュメに記載します。		
	学びの手立て 履行の心構えとしては、遅刻や雑談等の禁止はもちろんであるが、学びを深めるためには多めに議論を行ってほしい。もちろん参考文献等にもしっかりと目を通してほしい。		
	評価 基本的には試験とレポートで評価をしますが、途中で行う小テストや出席も加味します。試験は10問程度の中から2問を選択し解答する形式です。その際、講義で配布したレジュメや参考文献の持ち込みは可能です。レポートは複数の題から選択・解答してもらいます。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 学びの継続として、やはり復習の繰り返しと、可能な限り多くの参考文献にも目を通してほしい。次のステージへのステップとしては、講義で習った歴史の出来事（事象）が起こった背景や意義（沖縄社会へ与えた影響）を意識した学習のあり方を模索してほしい。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の歴史Ⅱ（近現代）	後期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-渡名喜 守太	1年	mrttnk@yahoo.co.jp	

学びの準備	ねらい 沖縄の歴史を知り、「沖縄問題」の起源を理解し、「沖縄問題」の本質を考え、解決の道を探ることを目的とする。特に自己決定権や「イデオロギーからアイデンティティーへ」の意義の理解を目指す。	メッセージ これまで学んで身につけた常識を覆す内容も多いとは思いますが、なるべくわかりやすく教えたいと思います。
	到達目標 自己決定権をはじめとする「沖縄問題」に関する最先端の知見を習得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	概説	授業後に内容確認等で理解を深める
	2	琉球併合論①（概説）	授業後に内容確認等で理解を深める
	3	琉球併合論②（国際法から見た琉球併合）	授業後に内容確認等で理解を深める
	4	植民地としての琉球①（同化政策 旧慣温存と法制的同化）	授業後に内容確認等で理解を深める
	5	植民地としての琉球②（同化政策 精神的同化）	授業後に内容確認等で理解を深める
	6	沖縄差別と沖縄知識人	授業後に内容確認等で理解を深める
	7	戦前の沖縄社会	授業後に内容確認等で理解を深める
	8	戦前の抵抗運動（民族運動から社会主義へ）	授業後に内容確認等で理解を深める
	9	戦前の沖縄文化（伝統文化から沖縄芝居、レコード文化の発展）	授業後に内容確認等で理解を深める
	10	沖縄文化・アイデンティティーの破壊（皇民化、精神総動員運動）	授業後に内容確認等で理解を深める
	11	沖縄戦①（概説）	授業後に内容確認等で理解を深める
	12	沖縄戦②（戦争責任、法的責任と戦争犯罪。国際法から見た沖縄戦）	授業後に内容確認等で理解を深める
	13	軍事基地の形成（国際法から見た沖縄の軍事基地）	授業後に内容確認等で理解を深める
	14	「復帰」後の沖縄問題	授業後に内容確認等で理解を深める
	15	「沖縄問題」の現在	授業後に内容確認等で理解を深める
	16	レポート提出	
	テキスト・参考文献・資料など テキストは指定しない。資料はその都度配布する。参考文献は講義で示す。		
	学びの手立て 目的意識、問題意識をもって受講することが望ましい。		
	評価 平常点40%、レポート60%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「イデオロギーからアイデンティティーへ」や国際法の視点を身につけることによって、自己決定権の議論に参加できる。
-------	--

※ポリシーとの関連性 本学のポリシーに謳われている「自らの社会をより深く理解するための」の一助となるような講義を心がけています。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名 沖縄の歴史Ⅱ（近現代）	期別 後期	曜日・時限 土2	単位 2
	担当者 -恩河 尚	対象年次 1年	授業に関する問い合わせ	
			対面式の場合は、授業終了後に教室で受け付けます。それ以外は遠隔式で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 沖縄戦や基地問題等、現在の沖縄が抱える諸問題をもたらした近現代（明治時代から沖縄戦を経て戦後史まで）の歩みを概論します。	メッセージ 学生さんとのキャッチボールを意識した講義を心がけますので、多くの質問や疑問、質疑等を期待します。今回は遠隔式と対面式を交互に行います。遠隔式はレジュメを送信し感想を求めますが、あくまでレジュメの理解を把握するためですので、改めて資料やネット等で調べる必要はありません。また、当然ながら私語は絶対認めませんので留意下さい。
	到達目標 基地問題、環境問題等複雑な様相を示す沖縄の現代社会ではありますが、その理解の一助となるような講義を心がけます。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	①沖縄人について	対面式
	2	①沖縄人についての復習と感想、800字程度、締切は2週間後。②琉球処分（廃琉置県）の感想	遠隔式
	3	①沖縄人についての補足説明と質疑応答、②琉球処分（廃琉置県）の補足説明と質疑応答	対面式
	4	③旧慣温存（存続）と近代諸改革の感想、800字程度、締切は2週間後	遠隔式
	5	③旧慣温存（存続）と近代諸改革の補足説明と質疑応答	対面式
	6	④沖縄移民の諸相の感想、800字程度、締切は2週間後	遠隔式
	7	④沖縄移民の諸相の補足説明と質疑応答（1回目）	対面式
	8	⑤国家総動員態勢の確立（沖縄戦への道）の感想、800字程度、締切は2週間後	遠隔式
	9	④沖縄移民の諸相の補足説明と質疑応答（2回目）	対面式
	10	移民体験者、あるいは沖縄戦体験者の聞き取り、800字程度、締切は3週間後	遠隔式
	11	⑤国家総動員態勢の確立（沖縄戦への道）の補足説明と質疑応答	対面式
	12	⑥沖縄戦の感想、800字前後、締切は2週間後	遠隔式
	13	⑥沖縄戦の補足説明と質疑応答	対面式
	14	⑦引き揚げと沖縄戦後史の感想、800字前後、締切は2週間後	遠隔式
15	⑦引き揚げと沖縄戦後史の補足説明と質疑応答	対面式	
16	テスト及びレポートの提出	遠隔式	
実践	テキスト・参考文献・資料など 適当な教科書がないので、原則、毎回、テーマに沿ったレジュメを作成・配布します。また、参考文献は、レジュメにその都度、掲載します。		
	学びの手立て		
	評価 評価はテストとレポートで行います。テストはおよそ10問程度の中から2問を選んで解答してもらいます。その際、講義で配布しているレジュメや参考文献の持ち込みは可とします。理由としては、歴史事象が起こった年代等を問うのではなく、その事象が起こった歴史的背景や意義を答えてもらうようにするためです。レポートは数題の中から1題を選んでもらい、テストの際に解答用紙と一緒に提出してもらいます。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 歴史の学習は、ひたすら参考文献や資料の多読につきると考えています。
-------	--

※ポリシーとの関連性 琉球併合から現代にいたる沖縄の歴史を理解することで、沖縄を取り巻く諸問題に向き合うための基礎学力を習得する。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の歴史Ⅱ（近現代）	前期	土3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-新城 俊昭	1年	E-mail:aragusuku1013@yahoo.co.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>1 本講座では、近代沖縄から現代沖縄までの歴史を概説的に学習する。また、時代と関連するヒト・モノにも焦点をあてる。</p> <p>2 日本史や世界史で学んだ知識に琉球・沖縄史の視点を組み込むことで、歴史の本質を見極める目を養う。</p> <p>3 沖縄という地域で独自の歴史を形成した先人の足跡を学ぶことで、沖縄人(カナンチュ)としてのアイデンティティの確立を図る。</p>	<p>沖縄学の父・伊波普猷は「汝の立つところを深く掘れ、そこには泉あり」というドイツの哲学者ニーチェの言葉を引用して、沖縄の歴史や文化を学ぶことの大切さを説いている。自らの生まれ育った地域には、先人の知恵や自分自身の存在理由を解き明かしてくれるヒントが埋まっているからだ。本講座で、ウチナンチュのアイデンティティについて学習を深めてほしい。</p>
到達目標	<p>1 琉球国がどのように崩壊して明治政府に併合されたのかを学ぶことにより、現代沖縄の諸問題に向き合う基礎的教養を身につけることができる。</p> <p>2 近代沖縄の人々がどのように日本へ同化・皇民化されたのかを学ぶことにより、現代ウチナンチュのアイデンティティを考える手だてすることができる。</p> <p>3 沖縄戦の実相を追及することで住民を守らない軍隊の本質を知ることができ、反戦・平和の思想を高めることができる。</p> <p>4 日本復帰運動や現代の基地問題等を学ぶことにより、沖縄の将来像を描くための基礎的教養を身につけることができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	授業を始めるにあたって。明治政府による琉球併合	
	2	旧慣温存策と沖縄県政—沖縄民衆は世替わりをどう受け止めたか	テキスト 第6章の1
	3	謝花昇の民権運動と人頭税廃止運動—県民は権利をどう獲得したか	テキスト 第6章の2, 3
	4	昭和恐慌と移民—ソツ地獄とはどのような社会状況か	テキスト 第6章の4
	5	軍国主義の台頭—15年戦争はどのように始まったか	テキスト 第7章の1
	6	戦時体制と県民の暮らし—標準語励行運動がもたらしたものは何か	テキスト 第7章の2
	7	アジア太平洋戦争と沖縄—日本はなぜ米国と戦争を始めたか	テキスト 第7章の3
	8	沖縄戦前夜（対馬丸事件、10・10空襲）—沖縄戦はなぜ起こったか	テキスト 第7章の4
	9	沖縄戦の実相—沖縄戦から何を学ぶか	テキスト 第7章の5
	10	米軍支配のはじまり—戦後の焼け跡からどのように立ち上がったか	テキスト 第8章の1
	11	琉球政府の設立—島ぐるみ闘争はなぜおこったか	テキスト 第8章の2
	12	日本復帰運動—沖縄住民はなぜ日本復帰を望んだか	テキスト 第8章の3
	13	新生沖縄県—日本復帰で何が変わったか	テキスト 第9章の1, 2
	14	現代の沖縄—基地問題など現代沖縄の課題にどう立ち向かうか	テキスト 第9章の3, 4
15	琉球・沖縄の歴史と文化のまとめ	試験勉強	
16	期末考査		

テキスト・参考文献・資料など

テキスト：新城俊昭『教養講座 琉球・沖縄史』 編集工房東洋企画発行 2014年 1200円（学生価格）。
 参考文献：新城俊昭『沖縄から見える歴史風景』 編集工房東洋企画発行 2010年。新城俊昭『琉球・沖縄 歴史人物伝』 沖縄時事出版 2007年。新城俊昭『戦後100年へのメッセージ 2045年のあなたへ』 時事出版発行 2016年。
 その他、必要に応じて資料を配布。

学びの手立て

- ・授業はシラバスに記した内容を教科書に沿って進めるので、必ず教科書を購入して予習し、授業に臨むようにすること。
- ・毎時間、本時の学習内容をまとめたワークシートと関連資料を配布して授業を進めるので、ワークシートに空欄の無いようしっかりとまとめ、ファイルに整理すること。また、ワークシートに記載されていない事項は余白を利用してメモをするなど、各自で工夫すること。
- ・授業の最後には簡単なテストを実施するので、ワークシートの書き込みを怠らないこと。

評価

評価はポータルによるレポートとテストで行う。
 レポート75点（5点×15回）
 テスト25点

学びの継続

次のステージ・関連科目

(1) 関連科目：沖縄の歴史Ⅰ「類似科目」：沖縄近現代史Ⅰ・Ⅱ「上位科目」：沖縄の経済、沖縄の政治、沖縄戦、沖縄の基地問題A・B、卒業論文
 (2) 次のステージ：興味・関心をもった歴史事象について戦争遺跡や平和祈念資料館・県立博物館などの施設で学習を深める。基地問題など現代沖縄の諸問題について学習を深める。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の歴史Ⅰ（前近代）	後期	土3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-新城 俊昭	1年	E-mail:aragusuku1013@yahoo.co.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>1 本講座では、先史時代から近世琉球までの沖縄の歴史を概説的に学習する。また、時代に関連するヒト・モノにも焦点をあてる。</p> <p>2 日本史や世界史で学んだ知識に琉球・沖縄史の視点を組み込むことで、歴史の本質を見極める目を養う。</p> <p>3 沖縄という地域で独自の歴史を形成した先人の足跡を学ぶことで、沖縄人(カナンチュ)としてのアイデンティティの確立を図る。</p>	<p>沖縄学の父・伊波普猷は「汝の立つところを深く掘れ、そこには泉あり」というドイツの哲学者ニーチェの言葉を引用して、沖縄の歴史や文化を学ぶことの大切さを説いている。自らの生まれ育った地域には、先人の知恵や自分自身の存在理由を解き明かしてくれるヒントが埋まっているからだ。本講座で、ウチナンチュのアイデンティティについて学習を深めてほしい。</p>
到達目標	<p>1 先史時代の沖縄の学習を深めることで、琉球石灰岩で覆われた沖縄特有の地層から化石人骨が多く発見されていることを理解し、日本の旧石器時代の解明に興味・関心がもてる。</p> <p>2 古琉球の学習を通して「琉球国」が中国を宗主国とした東アジア社会の国際秩序の中で形成されていたことを理解し、広い視野で歴史を見ることが出来る。</p> <p>3 近世琉球の学習を通して、薩摩島津氏がなぜ琉球を侵略したのか、二重朝貢国となった琉球がどのようにして王国体制を維持することができたのか、弱小琉球の国家運営のありかたから現在の諸問題に向き合うための基礎的教養を身につけることができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(対) 授業を始めるにあたって。沖縄人はどこから来たのか	
	2	(特) 沖縄貝塚時代一貝塚文化の特徴と縄文・弥生文化との関係	テキスト 第1章の1
	3	(対) グスク時代一按司の登場と三山時代の形成	テキスト 第2章の1, 2
	4	(特) 琉球国の誕生一三山統一と明との朝貢・冊封関係	テキスト 第2章の3
	5	(対) 第二尚氏王統の誕生と琉球の繁栄一金丸のクーデターと中央集権体制	テキスト 第3章の1
	6	(特) 大交易時代の琉球一大交易展開の歴史背景、オヤケアカハチの戦い	テキスト 第3章の2, 3
	7	(対) 薩摩島津氏の琉球侵攻一琉球侵略の歴史的背景	テキスト 第4章の1①
	8	(特) 島津氏の琉球統治一近世琉球の仕組みと江戸立（江戸上り）の意義	テキスト 第4章の1②
	9	(対) 羽地朝秀の政治改革一近世琉球の政治体制の確立	テキスト 第4章の2①
	10	(特) 薩摩支配下の進貢貿易一赤字の進貢貿易と王国体制の維持	テキスト 第4章の2②
	11	(対) 蔡温の政策一土地制度と税制の仕組み	テキスト 第4章の3
	12	(特) 両先島の支配一宮古・八重山統治と乾隆36年の大津波の影響	テキスト 第4章の4
	13	(対) 琉球文化の特徴一「組踊」にみる琉球芸能の特徴	テキスト 第4章の5
	14	(特) 欧米船の来航一押し寄せる近代の波と動揺する王府体制	テキスト 第5章の1, 2
15	(対) 琉球史のまとめ一沖縄歴史検定などを利用	試験勉強	
16	(対) 期末考査		

テキスト・参考文献・資料など
<p>テキスト：新城俊昭『教養講座 琉球・沖縄史』 編集工房東洋企画発行 2014年 1200円(学生価格)。</p> <p>参考文献：新城俊昭『沖縄から見える歴史風景』 編集工房東洋企画発行 2010年。新城俊昭『琉球・沖縄 歴史人物伝』沖縄時事出版 2007年。 その他、必要に応じて資料を配布。</p>

学びの手立て
<ul style="list-style-type: none"> ・授業はシラバスに記した内容を教科書に沿って進めるので、必ず教科書を購入して予習し、授業に臨むようにすること。 ・毎時間、本時の学習内容をまとめたワークシートと関連資料を配布して授業を進めるので、ワークシートに空欄の無いようしっかりとまとめ、ファイルに整理すること。また、ワークシートに記載されていない事項は余白を利用してメモをするなど、各自で工夫すること。 ・授業の最後には簡単なテストを実施するので、ワークシートの書き込みを怠らないこと。 ・欠席の場合は、公欠・病欠にかかわらず事前に届け出ること。事情があって事前に届け出ることができなかった場合は、理由を付記して速やかに届け出ること。

評価
<p>評価は毎時間の授業に対する取り組み、課題（レポート形式）、確認試験で行う。</p> <p>配分は、毎時間の授業評価(小テスト形式)30%、課題(フィールドワークのレポート)30%、確認試験(予め与えた問題プリントから出題)40%。また、授業に取り組む姿勢や意欲も評価の対象とし、場合によっては加点・減点することもある。</p>

学びの継続
<p>次のステージ・関連科目</p> <p>(1)「関連科目」：沖縄の歴史Ⅱ、沖縄の考古学、沖縄の民俗、沖縄の自然環境Ⅰ・Ⅱ 「類似科目」：沖縄前近代史Ⅰ・Ⅱ「上位科目」：琉中交流史、沖縄の文学、沖縄の美術・工芸、沖縄の芸能</p> <p>(2) 次のステージ：興味・関心をもった歴史事象について沖縄県史などの文献で学習を深める。興味・関心をもった歴史事象について諸遺跡や県立博物館などの施設で学習を深める。組踊など琉球芸能を鑑賞する。</p>

※ポリシーとの関連性 本学のポリシーに謳われている「自らの社会をより深く理解するための」の一助となれるような講義を心がけています。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の歴史Ⅰ（前近代）	前期	土1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-恩河 尚	1年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	前近代（明治時代以前）の沖縄歴史を、主としてグスク時代から幕末までを通史的に行います。沖縄文化を生み出した歴史的背景を概論します。	複雑な様相を帯びる沖縄社会を理解する手段の一つとして、本講義を位置づけています。

到達目標
大学に入るまでにほとんど接することのなかった沖縄の歴史や文化について、本格的に学べる機会だと思います。年代等を暗記する、いわば受験勉強の延長のような講義ではなく、例えば、首里城を自らガイドできるような、あるいは沖縄の歴史・文化の基層を学べるようになるまでを目標としています。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	グスク時代と古琉球	レジュメの復習と参考文献の参照
	2	大交易時代と古琉球	同上
	3	進貢貿易と大交易時代	同上
	4	首里城と東アジア社会Ⅰ	現場視察。首里城に行つて欲しい。
	5	首里城と東アジア社会Ⅱ	レジュメの復習と参考文献の参照
	6	首里城と東アジア社会Ⅲ	同上
	7	薩摩侵入Ⅰ（歴史的背景）	同上
	8	薩摩侵入Ⅱ（歴史的背景）	同上
	9	薩摩侵入の歴史的意義	同上
	10	間切と村	現在の行政区画との比較
	11	沖縄人の姓名について	身内や周囲の姓名の聞き取り
	12	沖縄の道Ⅰ（陸上交通）	現在との比較
	13	沖縄の道Ⅱ（海上交通）	同上
	14	近代沖縄の前夜Ⅰ（牧志・恩河事件と島津斉彬）	レジュメの復習と参考文献の参照
15	近代沖縄の前夜Ⅱ（牧志・恩河事件と島津斉彬）	同上	
16	テスト及びレポートの提出		

テキスト・参考文献・資料など
適当な教科書がないので、原則、テキストは使用せず、毎回、テーマに沿ったレジュメを作成・配布します。また、参考文献は、レジュメにその都度、掲載します。

学びの手立て
学生さんとのキャッチボールを意識した講義を心がけます。そのため、多くの質問・質疑を期待します。また、当然ながら私語は絶対に認めませんので、留意下さい。

評価
評価はテストとレポートで行います。テストは配付資料や他の文献等の持ち込み等を可とします。レポートは数テーマを課しますので、その中から1テーマを選んで調べて下さい。いずれも独創性にあふれた解答（テスト）と、調査内容（レポート）を期待します。配分割合は、各50%ずつです。

学びの継続
次のステージ・関連科目 配布資料に記載されている参考文献はもちろん、図書や論文等の多読を期待します。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の歴史Ⅰ（前近代）	前期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-渡名喜 守太	1年	mrttnk@yahoo.co.jp	

学びの準備	ねらい 沖縄の歴史を知ることによって、現在の「沖縄問題」に対する視点、見識を養い、その解決の道を探ることを目的とする。沖縄とは何か、沖縄人とは何かを知ることによって近年注目されている自己決定権に対する理解を目指す。政治史だけでなく、アイデンティティーに関連する文化についても学ぶ。	メッセージ 初めて耳にする内容も多いとは思いますが、文献資料や映像資料を用いてわかりやすく教えようと思います。
	到達目標 沖縄とは何か、沖縄人とは何かを知ることにより、その地位や権利を知り、自己決定権など「沖縄問題」に関して最先端の視点を身につけられると思う。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	概説	授業後に内容確認等で理解を深める
	2	日本の自意識	授業後に内容確認等で理解を深める
	3	中世の琉球 東アジア世界の形成と琉球	授業後に内容確認等で理解を深める
	4	近世の琉球	授業後に内容確認等で理解を深める
	5	琉球の自意識 アイデンティティーの形成①	授業後に内容確認等で理解を深める
	6	琉球の自意識 アイデンティティーの形成②	授業後に内容確認等で理解を深める
	7	琉球の地位 中国との関係	授業後に内容確認等で理解を深める
	8	琉球の地位 日本との関係（琉球使節）	授業後に内容確認等で理解を深める
	9	琉球の地位 西洋との関係（条約締結）	授業後に内容確認等で理解を深める
	10	精神世界の形成①	授業後に内容確認等で理解を深める
	11	精神世界の形成②	授業後に内容確認等で理解を深める
	12	精神世界の形成③	授業後に内容確認等で理解を深める
	13	琉球の社会と政治	授業後に内容確認等で理解を深める
	14	琉球併合前史（日本の幕末における琉球）	授業後に内容確認等で理解を深める
	15	まとめおよび補足	授業後に内容確認等で理解を深める
	16	レポート提出	
	テキスト・参考文献・資料など テキストは使用しない。資料はその都度配布する。参考文献は講義で示す。		
	学びの手立て 目的意識、問題意識をもって受講することが望ましい。		
	評価 平常点40%、レポート60%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 後期の沖縄の歴史Ⅱで「沖縄問題」と自己決定権について具体的に触れる。
-------	---

※ポリシーとの関連性 本学のポリシーに謳われている「自らの社会をより深く理解するための」の一助となれるような講義を心がけています。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖繩の歴史Ⅰ（前近代）	後期	土1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-恩河 尚	1年	対面式の場合は授業終了後に教室で受け付けます。それ以外はメールで受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	前近代（明治時代以前）の沖繩歴史を、主としてグスク時代から幕末までを通史的に行います。沖繩文化を生み出した歴史的背景を概論します。後期は江戸時代後半が主となります。	複雑な様相を帯びる沖繩社会を理解する手段の一つとして、本講義を位置づけています。また今回は対面式と遠隔式の授業を交互に行います。遠隔式はレジュメの感想を聞きたいので、改めてネットや資料等を調べる必要はありません。
到達目標	大学に入るまでにほとんど接することのなかった沖繩の歴史や文化について、本格的に学べる機会だと思います。年代等を暗記する、いわば受験勉強の延長のような講義ではなく、例えば、首里城を自らガイドできるような、あるいは沖繩の歴史・文化の基層を学べるようになるまでを目標としています。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	①間切と村	対面式
	2	①間切と村の復習と感想。感想は800字程度、締切は2週間後。②沖繩人の姓名の感想。	遠隔式
	3	①間切と村の補足説明と質疑応答。②沖繩人の姓名の補足説明と質疑応答（1回目）	対面式
	4	③沖繩の道Ⅰ（陸上交通）の感想、800字程度、締め切りは2週間後	遠隔式
	5	②沖繩人の姓名の補足説明と質疑応答（2回目）	対面式
	6	④沖繩の道Ⅱ（海上交通）の感想、800字程度、締め切りは2週間後	遠隔式
	7	③沖繩の道Ⅰ（陸上交通）の補足説明と質疑応答	対面式
	8	⑤近代沖繩の前夜（牧志・恩河事件と島津斉彬）の感想、800字程度、締め切りは2週間後	遠隔式
	9	④沖繩の道Ⅱ（海上交通）の補足説明と質疑応答	対面式
	10	⑥向象賢（羽路朝秀）と蔡温の感想、800字程度、締め切りは2週間後	遠隔式
	11	⑤近代沖繩の前夜（牧志・恩河事件と島津斉彬）の補足説明と質疑応答	対面式
	12	⑦系図（家譜）とは？の感想、800字程度、締め切りは2週間後	遠隔式
	13	⑥向象賢（羽地朝秀）と蔡温の補足説明と質疑応答	対面式
14	沖繩の歴史と文化について、好きなテーマを選び、800字前後で感想をまとめてください。	遠隔式	
15	⑦系図（家譜）とは？の補足説明と質疑応答	対面式	
16	テスト及びレポートの提出	遠隔式	
テキスト・参考文献・資料など	適当な教科書がないので、原則、テキストは使用せず、毎回、テーマに沿ったレジュメを作成・配布します。また、参考文献は、レジュメにその都度、掲載します。		
学びの手立て	学生さんとのキャッチボールを意識した講義を心がけます。そのため、多くの質問・質疑を期待します。また、当然ながら私語は絶対に認めませんので、留意下さい。		
評価	評価はテストとレポートで行います。テストは配付資料や他の文献等の持ち込み等を可とします。レポートは数テーマを課しますので、その中から1テーマを選んで調べて下さい。いずれも独創性にあふれた解答（テスト）と、調査内容（レポート）を期待します。配分割合は、各50%ずつです。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 配布資料に記載されている参考文献はもちろん、図書や論文等の多読を期待します。
-------	---

※ポリシーとの関連性 本学のポリシーに謳われている「自らの社会をより深く理解するための」の一助となれるような講義を心がけています。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の歴史Ⅰ（前近代）	前期	土2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-恩河 尚	1年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	前近代（明治時代以前）の沖縄歴史を、主としてグスク時代から幕末までを通史的に行います。沖縄文化を生み出した歴史的背景を概論します。	複雑な様相を帯びる沖縄社会を理解する手段の一つとして、本講義を位置づけています。

到達目標	大学に入るまでにほとんど接することのなかった沖縄の歴史や文化について、本格的に学べる機会だと思います。年代等を暗記する、いわば受験勉強の延長のような講義ではなく、例えば、首里城を自らガイドできるような、あるいは沖縄の歴史・文化の基層を学べるようになるまでを目標としています。
------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	グスク時代と古琉球	レジュメの復習と参考文献の参照
	2	大交易時代と古琉球	同上
	3	進貢貿易と大交易時代	同上
	4	首里城と東アジア社会Ⅰ	現場視察。首里城に行つて欲しい。
	5	首里城と東アジア社会Ⅱ	レジュメの復習と参考文献の参照
	6	首里城と東アジア社会Ⅲ	同上
	7	薩摩侵入Ⅰ	レジュメの復習と参考文献の参照
	8	薩摩侵入Ⅱ	同上
	9	薩摩侵入の歴史的意義	同上
	10	間切と村	レジュメの復習と参考文献の参照
	11	沖縄人の姓名について	身内や周囲への聞き取り
	12	沖縄の道Ⅰ（海上交通）	現在との比較
	13	沖縄の道Ⅱ（陸上交通）	同上
	14	近代沖縄の前夜Ⅰ（牧志・恩河事件と島津斉彬）	レジュメの復習と参考文献の参照
15	近代沖縄の前夜Ⅱ	同上	
16	テスト		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 適当な教科書がないので、原則、テキストは使用せず、毎回、テーマに沿ったレジュメを作成・配布します。また、参考文献は、レジュメにその都度、掲載します。
-------	--

学びの手立て	学生さんとのキャッチボールを意識した講義を心がけます。そのため、多くの質問・質疑を期待します。また、当然ながら私語は絶対に認めませんので、留意下さい。
--------	---

評価	評価はテストとレポートで行います。テストは配付資料や他の文献等の持ち込み等を可とします。レポートは数テーマを課しますので、その中から1テーマを選んで調べて下さい。いずれも独創性にあふれた解答（テスト）と、調査内容（レポート）を期待します。配分割合は、各50%ずつです。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 配布資料に記載されている参考文献はもちろん、図書や論文等の多読を期待します。
-------	---